

小金井市立保育園の今後の運営に係る保護者説明会 議事録

日時：令和3年12月4日 午前9時00分～午前12時00分

会場：小金井市立くりのみ保育園

対象：くりのみ保育園の保護者

参加者数：13人

○事務局（中島） それでは皆さんおはようございます。本日はお忙しい中、小金井市立保育園、今後の運営に係る保護者説明会にご参加いただきまして、誠にありがとうございます。

定刻となりましたので、始めさせていただければと思います。

本日司会を担当します、保育課の中島と申します。どうぞよろしくお願いいたします。

これ以降、着座で失礼いたします。

はじめに開会に当たりまして、注意事項をお伝えさせていただきます。

会場では、携帯電話、スマートフォン等の電源はお切りくださいますようお願いいたします。マナーモード等の音が鳴らない状態でご協力のほうもよろしくお願いいたします。

本説明会につきましても、市のほうで録音をさせていただきます。録音した音声を基に議事録等を作成し、ホームページ等で個人が特定できないように配慮した上で公開する予定となっております。

なお、個人のプライバシーに配慮するため、参加の方による動画、写真の撮影、音声の録音等をご遠慮いただきますようよろしくお願いいたします。

また、新型コロナウイルス感染症対策としまして、説明会参加中はマスクの着用をお願いいたします。

なお、ご存じとは思いますが、保育園敷地内でございますので、喫煙等の配慮のご協力のほど、よろしくお願いいたします。

本日の説明会、保育の時間の関係や午後の説明会がわかたけ保育園でも予定されております。2時間を予定しておりますので、ご協力のほうをよろしくお願いいたします。

前回の説明会と同様の趣旨での開催ということをお伝えをしているところでございますが、資料については、同じものを席上のほうにお配りをさせていただいております。

資料のついているクリップボードのほうは、説明会が終わりましたら回収させていただきます。

きます。そのまま椅子の上に置いてお帰りいただければと思います。

ご案内は以上となります。

続きまして、本日の出席者を紹介させていただきます。

小金井市長の西岡真一郎でございます。

○西岡市長 おはようございます。よろしくお願い申し上げます。

○事務局（中島） 小金井市教育委員会教育長の大熊雅士でございます。

○大熊教育長 よろしく申し上げます。

○事務局（中島） 子ども家庭部長の大澤でございます。

○大澤子ども家庭部長 大澤でございます。よろしくお願いいたします。

○事務局（中島） 保育政策担当課長の平岡でございます。

○平岡保育政策担当課長 平岡と申します。よろしくお願いいたします。

○事務局（中島） それでは、会議に先立ちまして、小金井市長の西岡よりご挨拶させていただきます。

○西岡市長 皆様、おはようございます。小金井市長の西岡真一郎でございます。

本日は大変お忙しい中、また、貴重な土曜日の午前中という時間帯にもかかわらず、「新たな保育業務の総合的な見直し方針（案）」にかかる説明会にご出席をいただきまして、誠にありがとうございます。

また、皆様方におかれましては、日々、小金井市の保育行政にご協力を賜り、そして、以上に及ぶ新型コロナウイルスの感染拡大への防止への様々な取り組みにもご理解とご協力をいただいておりますこと、重ねて御礼と感謝を申し上げます。ありがとうございます。

この後につきましては、感染拡大防止の観点から着座にて、またマスクをしたまま、私も発言時に着座にてお話をさせていただきますこと、どうかご理解いただきたいと思います。よろしくお願いいたします。

それでは、保護者の説明会についてでございます。前回6回の説明会を開催いたしまして、多くのご意見、ご要望を伺ったところでございます。その際、時間的制約のある中、重ねての開催をご要望されるご意見も多く、私といたしても、引き続き開催させていただくことといたしました。そのため、本日の説明会は、初めて参加をされた方もいらっしゃると思いますが、この後、私のほうで若干のお時間をいただいた後に、再度、質疑応答、またご意見、ご要望を伺うほうに重きを置かせていただく会とさせていただきますので、よろしくお願いいたします。

前回は保護者説明会6回、市民の方向け説明会2回開催し、そして、現在も説明会の渦中にございまして、保護者向け説明会7回、そして明日、日曜日には午後の時間帯で市民向け説明会1回、合計16回の説明会に、私たち、以上のメンバーで臨ませていただいているところでございます。

それでは、前回の説明会の中で、特に多くのご質問、ご意見などをいただいたものや、この間、多くのご質問をいただいたものの中で4点に絞りまして、冒頭、私の考え方につきまして、皆様方にお伝えをさせていただきます。

1点目は、改めて「廃園する理由」に関してでございます。

この間、段階的縮小の後に廃園することを選択した理由は、市財政のみではないかのご意見を複数いただきました。小金井市の施策や事業を行うに当たりまして、財政の問題は無視できないものでございます。これを念頭に置かずに事業を継続することはできません。そのため、今回の公立保育園の件についても、財政面が理由に含まれることは事実であります。そのことを、お配りしてある資料にも書かせていただいております。

私といたしましても、市役所全体としての職員数の問題、また人件費の問題など、自治体経営の視点において、保育園5園を直営で維持し続けることは難しいという考え方を市長就任以来、持っておりました。

その前提の中で、今回の方針（案）を策定するに至った最大の理由は、公立保育園の運営者といたしまして、お子様の安全を第一に考えた結果であります。今後、公立保育園は整備しないという方針の下、老朽化が進む施設に対して今から対応を定めるべきと判断したからでございます。

そのほか、今後、人口減少が見込まれる中、待機児童も減少傾向のことや、公立保育園自体、維持していく上での人材確保という大きな課題も、市全体におきましては、さらなる保育サービスの拡充や、質の維持・向上のためにさらなる予算と人材が必要であることなど、様々な状況、背景を勘案し、策定させていただいたものでございます。

また、廃園の理由に関連いたしまして、今回の方針（案）では、小金井市の保育がよくなるが見えてこないというご意見もいただいております。跡地利用の件やサービス拡充の内容についての言及もございましたが、私といたしましては、別の施設を建てる代わりに公立保育園3園を廃園するというものではございません。同じ保育行政の中で、これまで対応できていなかったことに対し、対応・充実を図ってまいりたいと考えております。

この間、ご紹介しております、今年3月に策定をさせていただきました、小金井市が初めて策定した計画、すこやか保育ビジョンは、保育の質に重きを置いたものとなっておりますが、これまでも課題となっていた多様なニーズについても記載しております。

以前から課題となっていた、特別な配慮が必要なお子様への対応、幼保小連携など、保育分野だけでも進めなければならない施策は様々ございます。今回取り組んでいく内容について、詳しくは方針（案）の9ページ以降に記載をしておりますので、ぜひご覧をいただければと思います。

2点目は、「在園のお子様への影響や対応について」でございます。

私といたしましても、園児が少なくなることに対するお子様への影響がないとは考えておりません。特に異年齢保育が実施できなくなっていくことも、事実として認識しております。お子様の日々のケア、また、ご家族の支援につきましては、現場の保育士に担っていただくことに勝るものはございませんが、決して現場任せというわけではなく、少しでも多くの取組ができるよう鋭意検討しているところでございます。そのような中で園児が少なくなってもお子様に対して何ができるかにつきましては、現在、現場とも相談をしながら保育課において検討を続けております。

これまでの説明会の中でも、その取組の一つといたしまして、例えば他園との交流、小学校との交流、地域との交流などをお伝えしてまいりました。中でも小学校との交流につきましては、保育園から小学校への接続という点で、未来の子どもたちのために今すべきことは何かという視点からも検討を進めてございます。この幼保小連携、幼稚園、保育園と小学校との連携につきましては、市長部局と教育委員会という垣根を越えまして、関係課で集まって、今後進めていくことを確認いたしました。

その関連もありまして、今日は大熊教育長にもご出席をいただいているところであります。

今後、この取組を進めていく中で、くりのみ保育園及びさくら保育園での取組にも力を入れていきたいと考えております。

3点目は、「転園を希望される場合の対応について」でございます。

私といたしましては、保護者の皆様が現状に大変満足されている中、お子様が少なくても現在の園に最後まで通い続けられるようにしていくことが重要と考えております。そのため、決して転園を促す仕組みを設けるということではなくて、転園という選択を考えられる方も実際にいらっしゃいますので、そのご要望に対して対応させていただく

ものでございます。

段階的縮小期間に転園を選択された場合、入所指数の加点などの対応をさせていただくことを考えております。詳細は、方針（案）の8ページと9ページに記載しておりますので、ご覧いただければと思います。

最後に4点目でございます。「今後どのような形で合意形成を取っていくのか」、「スケジュールはどのように考えているのか」についてでございます。

私といたしましては、公立保育園3園を段階的に縮小していくという考え方をお示し、これを方針案という形にまとめ、現在保護者の皆様、また今後、市民の皆様にも引き続きご説明をしているというのが、現在の段階でございます。

また、スケジュールという点では、公立保育園の役割や廃園に関し、有識者を交えた会議など、議論すべきというご意見、ご要望も多くいただきました。公立保育園の運営方法の見直しに関しましては、平成9年から長きにわたり、様々な部分での議論や検討が行われてきましたが、公立保育園の役割につきましては、市の役割という形で整理させていただいたほか、施設老朽化などの課題も顕在化してきており、私といたしましては、さらに検討を続けるのではなく、小金井市として判断をさせていただく時期に来ていると考えております。新たな会議体の設置などにつきましては、現在、市議会のほうで、議員の方から会議を設置するための条例案が提示されています。それについては、議会のほうでご判断いただくこととなりますが、現時点で私の考えといたしましては、公立保育園の役割や廃園について議論する会議などを設置するという考えはございません。

そして、この先、どうしていくのかについてでございますが、前回8回の説明会でのご意見、ご要望、また、今回、市民説明会を含め、さらに8回の説明会でのご意見、ご要望なども踏まえた上で、次のステップに移るかどうかは、私が総合的に判断させていただきたいと考えております。

したがって、現時点で、いつ、何を、ということは申し上げられる段階ではございませんが、以前にご提案のあった保護者の皆様や父母会役員の皆様の賛否を問うような形ではなく、様々なご意見を踏まえて、私のほうで判断させていただくものと考えております。

冒頭に貴重なお時間をいただきましてありがとうございました。本日はどうぞよろしくお願いいたします。

【質疑応答】

○事務局（中島） それでは、質疑応答の時間に入りたいと思います。なるべく多くの方にご発言をいただきたいと考えておりますので、皆様のご協力をどうぞよろしくお願いいたします。

なお、ご発言に関しましては着座のままで結構でございます。お名前も議事録には残しませんので、発言されなくて結構です。

ご発言のある方は挙手でよろしくお願いいたします。職員のほうがマイクをお持ちします。

○参加者 マイクなしで大丈夫です。

○平岡保育政策担当課長 すみません、録音の関係があるので、もしできましたらばご協力お願いします。すみません。

○参加者 ありがとうございます。今回、何回も説明されていると思うんですけども、実際、説明されてきていかな感じですか。保護者や市民の方たちに理解を得られているという感覚はありますか。

まだあとあります。結構、質問がありまして、まずそれです。

あと第2に、最近、記事で見たんですけども、茨城のほうで、認可外保育園でしたけれども、最近、急に保育園が潰れるというか、何の前触れもなしにすぐなくなってしまふという事例がちょこちょこ耳に入ってきていまして、そういうことは小金井市でも近い将来あるんじゃないかというような不安をしています。本当に民間の保育園がたくさんつくられていて、待機児童は減っているというのはありがたいと思っているんですけども、でもその結果、いつ潰れてしまうかという、今、これからもう少子化問題にもなっているの、子どもたちが逆に少なくなってきた場合とか、そうすると民間の保育園とかは、どんどんどんどんなくなっていったりとか、閉鎖はしてないんですか。少なくなっていくときに、公立保育園ってやっぱり必要じゃないのかなって私は思っているんですけども。

あと、ちょっと分からないのが、保育園に代わって小金井市が代わってやっていくということがいまちょっと分からなくて、どういうことなのか。もうちょっと詳しくそこら辺を説明していただけませんか。取りあえずそんな感じです。お願いします。

○西岡市長 それでは、以後は、私や教育長、担当部長や担当課長など、ご質問に応じて役割分担をしながら、または、同じご質問にそれぞれの立場でお答えすることがあります。どうぞよろしくお願いいたします。

現在までに説明会12回、今日で13回目です。様々なご意見やご要望をいただいております。もちろん市の説明では不十分であるというようご指摘もあった、まだ理解ができていないというご意見があったり、また、もう少しこういった点について詰めしてほしいということがあったり、あるいは、先ほども冒頭申し上げましたが、転園などについて、いろいろな課題をぜひ整理してほしいということであったり、また、異年齢保育ができなくなりますので、今、私たちが考えていることについて、いろいろと詳しくお話を聞かせていただきたいなどなど、様々なご意見をいただいているところです。

私といたしましては、この説明会、一方的に説明をするものではもちろんなくて、名前は説明会ですけれども、実際、これまでは可能な限り、時には、くりのみさんの場合は、1回目の説明会も11時で終わる予定が、たしか2時前ぐらいまでかかってしまいましたが、時間のある限り、皆様方のご意見、いろんな声を聞き、対話に努め、そして、対話の目的は何ですかというご質問がありましたが、私は相互理解ですというふうにお答えをさせていただきました。現在はその説明会、対話のさなかにいるというふう理解をしております、私たちのこの16回、全部で説明会を開催いたしますので、その中で出していただいた、いろいろな声を十分検討させていただきたいと考えております。

そして、民間保育園の関係でございます。確かに私が市長に就任したのが平成27年です。前年の平成26年は小金井市の待機児童、たしか250何名。三多摩で待機児童率がワーストワンという段階で、私、市長に就任させていただきました。したがって、この間、保育行政、いろんなことに取り組んできましたが、まずは待機児童の解消ということに全力を挙げて取り組んでまいりました。当時1,700名であった保育の定員数は、来年4月で約4,000名弱になります、総定員数です。民間保育園もかなり増えてきました。

その中で、私たちは、令和7年、8年頃に年少人口がピークを超えて、そこから緩やかに人口は減少していく。小金井市の人口も令和13年辺りをピークに緩やかに減少していくと見ています。現在、確かに0歳児人口、コロナの関係も多少あるかもしれませんが、今、やや減少傾向になっているというふうにご考えています。そういう状況の中では、やはりご指摘にあったように、総保育園の定員数が過剰な飽和状態。つまりニーズと供給がアンバランスになってしまいますと、それは民間保育園の方々にとっても大変経営にいろいろな影響が出ておりますから、私たちは、その総定員数とニーズについて

しっかり予測をしながら、適切な対応を取っていく必要があると思って、今までは追いつかなかったんですね。待機児童が残念ながら発生してしまいました。今年の4月1日も待機児童41名。そのうち大半が1歳児なのでですね。なので、来年は新たに4園の新設保育園を開設いたします、認可保育園。これで約二百数十名の定員増を図らせていただきます。

かなり待機児童が減少するものと考えておりますが、令和4年4月1日で新しい認可保育園を4園開設いたしますが、新しい認可保育園の開設は、一旦ここで立ち止まらせていただきます。令和5年4月に開設する保育園の準備は今のところ行ってはおりません。それは、今ご指摘にあったように、保育の総定員数について、しっかり見極めていく必要があるからでございます。

民間企業のことでございますので、保育園にかかわらず、小金井市はいろんな仕事をたくさんの民間企業の方々に委託しています。指定管理であったり、業務委託であったり、実にたくさんの仕事を民間の方々に担っていただいています。もちろん一般論で申し上げれば、民間企業ですから、いろんな理由によって会社の経営状態が立ち行かなくなってしまって、様々な理由で廃業したり休業したりというリスクは、当然、常にあると思っています。しかし、保育園にあつては、お子さんをお預かりする。そして、保育園を開設するには厳しい審査を経て、そして、東京都などの監査も受けて、経営状況なども審査も受けて、また、第三者評価の審査なども受けて経営をしていただいています。一般的な保育園の場合は5年間だけ運営します、10年間だけ運営しますという期間限定で開設する保育園はなく、基本的にはずっと継続して、保育園は開設していただいているものと私たちも認識しておりますので、小金井市といたしましては、民間保育園が廃業につながってしまうような、そういう環境を小金井市が意図的につくることはあつてはならないとは考えています。

したがいまして、民間のリスクというのは、もちろん否定はできませんけれども、現状において、今たくさんの民間保育園がありますが、撤退のリスクを感じているという保育園は、現在、私は1園もないと思っております。

あとは担当のほうから補足させていただいて、最後の質問、公立保育園の恐らく役割のところのご質問だと理解しているので、少し分かりやすく。ほかの方々もお聞きしたいテーマだと思いますので、ちょっとご説明させていただきます。補足があれば。

○平岡保育政策担当課長 平岡と申します。よろしく願いいたします。

まず二つ目の、ご心配されている保育園の件で、ほかの説明会でもお話しうところがあつたんですけども、まず保育園の区分として、おっしゃつておられるように認可と認可外というのがあります。認可外というのは、開設するに当たつての手続が比較的簡単なものになつておられるのに対して、市役所のほうで、このところで増やしてきたのは、いわゆる認可保育園というものです。認可保育園というのは、東京都のほうに最終的に書類を出して、オーケーをもらわないといけなぬものなんですがつ、その際に過去5年間の決算の状況ですとか、今後の財務状況、そういったものも東京都の中でも確認をしてもらつて、運営の安定性というんですか、そういったところも見ていただいた上で、通つておられるというのが認可保育園になります。

一方、認可外の保育園さん自体、悪いというわけではないんですけども、そういった細かい手続をしなくても、場所を借りてやりたいということであれば認可外としてスタートすることができます。その中で、東京都のほうにある程度の届出をしていただいて、基準をある程度満たしていると、例えば無償化の対象になる保育園になられたりとか、そういうところはあるんですけども、そういった手続とか基準のところできちんと違いがあります。

ですので、この茨城の事例を細かく存じ上げておられるわけではないんですけども、そういった形で保育園として運営できるのが認可外さんですので、私たちらのほうで今進めてきた認可さんと比べると、撤退リスクというか、そういうところははるかに状況としては違つたかなというふうにお考えのほうで思つておられます。

それから、役割の件ですけれども、確かに公立保育園はこういう役割を持つんです、市役所はこういう役割を持つんですというのが分かりやすいというのは、この会でも伺つておられるところなんですけれども、私たちらとしては、同じ組織の中で、仕事をあえて分けるのではなくて、両方で連携して、一緒にやつていこうというふうなやり方で始めていきたいというふうにお考えです。

当然、保育園でないと、場所がないとできないこともあるとは思つたんですけども、課のほうも一緒になつてやつていってというような形で考えておられるので、細かく分けることなくやつていきたいので、市の役割という形で、ちよつと分かりづらく大枠になつてしまったかもしれないんですけども、そういう整理をさせていただいたという形になつておられます。

○参加者 ありがとうございます。取りあへず最初の質問、1番の問題に関しては説明会がどう

だったというのに対して、結局やっぱり、まだ私は説明不足というか、話し合い不足というか、理解は得られていないなというふうな実感をしています。なので、引き続きやっぱりどんどんこれからも、こういう説明会、話し合いは引き続きお願いしたいと思っています。

2番目の認可外保育園が潰れるという、その問題についてなんですけども、今、市長がおっしゃられた、今の現時点ではそういう園が、当たり前ですけども、そんな園があったらおかしいじゃないですか。そんなの分かっていると思うんですけども、新しくつくる、建てるときに、そんなものがあつたらどう考えても保育園として維持できないじゃないですか。そんなの分かっている、でもそういうことがあり得るということなんですよ、一番は。そこなんです。こちらが予想してないときに、茨城の件も、自治体も後で保護者から聞いた話によって、速達で通知が来たらしいんですけど。それに市側も全然把握していない状況でそういうふうに撤退するという。その園長先生は、もう逃げていなかったそうです。そうすると説明も誰もできないので、状況が全く分からないと思うんです。そういうことが、これからの将来あり得るということだと思えますよ。そうなったときに、保護者もすごく大変だと思うけれども、市としても大変になるんじゃないかなというのは思ったりします。だから、今の時点でそう言えるのは当たり前だと思えます。ただそうなったときに、対応をどうするかですよというのはありません。

三つ目が、保育の役割に関する説明なんですけれども、役割は分かっているけれども、その内容がほんと、その説明だと私、分からないです、正直。理解できませんでした。

以上です。

○西岡市長　ご要望は受け止めさせていただきたいと思っています。今日の残された時間の中では、精いっぱい皆様方と色々な対話をさせていただきたいと思っていますので、何か疑問があつたら、どうぞこの後も何度でもご質問してください。

それから、突然、速達が来て保育園閉めますというのは、これはあつてはならないことだと思えます。一般的には、一応、東京都、開設の認可ですね、これは東京都の児童福祉審議会の審査を受けて、いろんな厳しい審査を経て、さらには運営中もいろんな監査制度を受けたり、それから、第三者評価の監査を受けたりしながら経営する。

小金井では、廃園、民間が撤退するというんですかね、そういう状況はないものにし

なければいけないし、あつてはならないと思っていますけれども、手続的にはいろいろとルールがあるんですね、事前にお伝えするとか。今の例だと茨城県なので、ちょっと東京都ではないので違うルールがあるのかもしれませんが、東京都ですと、あのルールはもう通用しないルールだなど、聞いていて思いました。それはあつてはならないことだと思います。

小金井市の場合は、民間保育園の方々の園長会とかも開催して、横のつながりを持っています。そして、これからは、保育の質のガイドラインや保育ビジョンなどを幅広く保育園の方々、民間保育園の方々とも共有していこうと思っていますから、民間保育園の方々にも、もちろん保育指針に基づいて、民間は民間の立場で運用していただいています。横のつながり、小金井市で保育を担うということに対する重みとか、その責任の重さということ、もちろん大切なお子さんの命を預かるわけですから、そのこともしっかり共有をしていきたいと思っていますし、市としては、全体の定員数を管理したり、定員数をどのような形で持っていくのか。こちらについては民間の方々にも、これまでいろいろとご協力はいただいています。例えば0歳児が、弾力化とあって、0歳児の枠を少し増やしていただくようなこともしましたし、また、来年の保育園の開設に当たっては4園開設しますが、0歳児が今年4月1日に空きが51名出たんです、0歳の空き枠が。以前はこういうことはなかったんですけれども。なので、来年四つの保育園を開設しますが、そのうちの2園は0歳児の募集は行いません。1歳児からです。こういう調整をしています、市としては、

なので、今後も、民間の方々が撤退をするような過剰な飽和状態、経営を圧迫するような状況というのは、これはつくってはいけないと思っておりますので、そこはもう市の責任というふうに考えておまして、適切に対応してまいりたいと思っております。

○平岡保育政策担当課長 何度もすみません、先ほどから申し上げているとおり、茨城の例は認可外だったので、おっしゃっているようなことは、あつてはならないと私も思いますけれども、手続として認可ほど、先ほど市長が申し上げたとおりハードルが高くない状況もありますし、開設も認可よりも明らかに容易に開設できる状況がありますので、そういった認可の枠の外で保育をやられていらっしゃる事業者さんだったので、そういうようなこともされたのかなというふうに、ちょっと推測するところでもあります。確かに昔は、認可保育園が少なかったので、認可に入れない方がそういうところを利用されていたところ、どこの自治体も認可が増えていっていることによって、認可外さんに入る方

が減ってきているという状況は確かにあるとは思っています。

私たちのほうで今、メインでやっているのは、認可を増やしてきたというところがありますので、認可について同じようなことが起きるといのは、先ほど市長のほうで申し上げたとおり、かなり想定しにくいことであるなというふうには、私のほうも思っているところでもあります。

あと、役割のところについての説明が分かりづらいというところは、おっしゃっているとおり具体的に、例えば公立保育園にはこういうことをやってもらいたいみたいなことを書いているわけではないので、よく分からないと言われてしまえばそれまでだというふうには思っておりますけれども、やはり今まで公立は公立でやってきた地域との交流であるとか、園庭開放などであるとか、そういった事業については引き続いてやってもらいたいというのがありますけれども、今一番、私たちのほうでやるべきだと思っているのは、ほかの保育園を含めた交流、連携、こういったものが必要だと思っています。

ただ、それは実際、園を運営しながら公立の保育園がやるのではなくて、市の保育課のほうも一緒になって、両方が協力してやっていく必要があるというふうに思っているところもありますので、そういったなかなか線引きできないようなことも含めて、今後対応していく必要があると思っていますので、私たちのほうで大きく市というふうにくくらせていただいて、その役割を決めるところで今は止めさせていただいているというのが、分かりづらいというのはそのかもしれません、今の私たちとしての考え方としてはそういう形でやらせていただいております。

以上です。

○事務局（中島） 一回、別の方のご発言に移っても大丈夫ですか。

次に真ん中の方、お願いします。

○参加者 今日を含めて、説明会の参加3回目なんですけれども、いろいろな方や市長のお話を聞かせていただいて、なお思うところというのを聞かせていただきたいと思います。話がうまくないので、まとめてきたものをちょっと読ませていただきたいんですけども。

やっぱりいろいろと話を聞いた上でも、そもそも廃園案に至っている経緯というのは、どうしても納得できません。その姿勢にも不信感がやっぱりいっぱいです。

民営化の話というのが一体どこに行ってしまったのかというのと、その会議体の話合いだったり、長年のアンケート結果、素晴らしい結果のものだったりというのが完全に

無視されて、財政面のことが表に出ているというのが、やっぱり印象です。説得力が本
当になくて、いまだに疑問が残ります。

小金井のすこやか保育ビジョンを3月に策定して、それを活用した上でというお話も
されていますけれども、そもそもそれができている時期というのは本当に遅いと思いま
すし、民営化の話が始まったところで、そういった話合いもされるべきだったし、保育
の質を上げるために小学校との連携を深めるというのもちょっと、そこもよく分からな
いというふうに思っています。

説明会していただいた上で、すごく長丁場になって、対応はたくさんしてくださって
いるというふうにおっしゃっていますけれども、それは本当に当たり前のことで、何年
も前から民営化の話で来たものが、急に廃園というふうになって、そりゃあ話がまとま
らないのは当たり前で。本来だったら数年でもかけて対話をしていくべきものを、こう
やって急に話をどんどん進めていっているわけですから、こんなふうになっているとい
うのは、本当に対話のためにされているというのは当たり前のことだと感じています。

こういう形で急に廃園案の説明会をされて、本当に何か市民が置いてけぼりだなとい
うふうに思っています。総合的に判断して決めますというふうに冒頭おっしゃっていま
したけれども、そういうのが市政なのかな。これまでの話合いというのは、市民の意見
だったり、ほかの方の意見というのは何だったんだろうなというのは、すごくこの3回
目に至っても思うところと不安になっています。

なので、やっぱり公立保育園の役割というのをちゃんと定めて、その価値をちゃんと
認識していただいた上で話を進めてもらいたいというのが、やっぱり一番思っている
ところです。署名活動をしている中でも、本当に多くの方が共感されていて、市民の方で
実際そういうこととお話し、動いてくださっている方もいらっしゃいますけれども、本
当に公立保育園というのは市の財産だと思います。

経営主体というのがどうなっていくかというのは、その財政面でも検討されることだ
と思いますし、保護者も市民も民営化、廃園、絶対反対ということでは本当はないと思
うので、ちゃんと順番として、子ども中心に保育のことだったり、有識者だったり、地
域の利用される方とか、保護者が関わって話をした上で進めていく、そういう方向でや
っていただかないと、やっぱり納得できないです。現状は〇×表でしか子どもたちの
ことって出てきていないと思うんです。影響がある、ないみたいな。やっぱりそこで納
得しろと言われてもできないです。

やっぱり主役がどうなるかというところを話して話を進めていくというのが当たり前のことだと思うんです。いろんな方の意見も聞かないと分からないことってあると思うので、保育課の方だけで分かるんですかというのを、本当に正直なところですよ。

なので、そういう順番をちゃんと、プロセスを持って、結論ありきではなくって、やってほしいなというのが、本当にこの3回の説明会を聞いて、やっぱりな思うところですよ。それには時間がかかるというふうに思うかもしれないですけども、そこはもう全力で、これまで民営化について、これだけかかってきたわけなので、廃園についても、本当はそれだけ時間をかけて、意見をぶつけて話し合うことだと思うので、それは老朽化で危ないとか、そういう話なのであれば、それに間に合うぐらい急いで、全力でいろんな方の話を聞いて進めてほしいです。

なので、すみません、まとまりがあれなんですけれども、今回の説明会だけで私たちが納得したみたいな形に捉えずに、ちゃんとプロセスを持って、協議会をつくってというふうにやっていただきたい。まだまだ対話をする、話し合いをする機会というのを続けてほしいと思います。

以上です。

○西岡市長 ご意見、それからご指摘、あとご提案をいただきまして、ありがとうございます。しっかりと拝聴させていただきました。

改めて申し上げますが、今回、この廃園をするという判断は、お手元の資料に明記をさせていただいておりますが、施設の老朽化、それが課題。人材の確保。これも大きな課題です。費用負担。これも大きな課題、財政状況ですとか、また、将来の年少人口の減少と保育の定員数などを考えたときに、先ほど申し上げましたように市全体の保育の状況ということも考えなければいけません。

また、今やっているけれども、もっともっと深めていかなければいけないと思っております。それからさらに、小金井市全体の保育の質を高めていくには、これまで以上に人材と予算が必要になってくる。今のレベルではなくて、今できていないことも含めて、さらに向上させていく。こういった大きな前提があり、そして平成9年からいろんな会議体をつくって議論を積み重ねてまいりました。もちろん今、保護者の方にとっては、平成9年当時のことはもちろんご存じないと思いますし、また、民間委託などについても、長い間、運協の方々と議論をし、検討委員会もつくりましたが……。

○参加者 すみません。議論は積み重なっていないですよ。

- 西岡市長 ちょっと今発言中なので、後ほどご質問していただければと思います。
- 参加者 はい。
- 西岡市長 議論を積み重ねたつもりです。というのは……。
- 参加者 民間の議論を積み重ねて、何でいきなり廃園が出てくるんですか。
- 西岡市長 いやいや、ですから議論をずっと平成9年から、いろんな議論を積み重ねてきたというのを申し上げているんですね。形だけではなくて、運協の方々とも本当にいろんなことを議論してまいりました。

しかしながら、民間委託については、やはり保育士の方々が一斉に変わってしまう。ここに対して、非常に強い不安を感じる方もとても多かったです。それは事実です。保育士さんが一斉に変わって、もちろん引継ぎで1年間ぐらいはやるんですけども、しかしそこで、ある日から突然もちろん、委託すれば、保育士さんは一斉に変わってしまいますので、そのことに関する非常に強い懸念や不信感が示されていたというのも、これもまた事実であります。

そういった状況の中で、私といたしましては、この間、申しあげましたように、先ほどの理由から、もう判断しなければいけない時期ということで、令和10年の3月31日をもって、くりのみとさくらの2園、そして、わかたけ保育園については、その後になりますけれども、段階的縮小をスタートさせていただいて、公立保育園は小金井保育園とけやき保育園の2園で担っていく。

そして、その中で保育士の方々は、そのまずは2園で働いている保育士の皆さん方は、もちろん、けやき、小金井で働いていただくことを中心といたしますが、小金井市の保育課の中に新たなチームをつくらせていただいて、市全体の保育の質の向上につながる、今、できていないことがありますので、そういった取組にもぜひ取り組ませていただきたい。こういうことで、保育の質の向上につなげていく取組にも早く着手をさせていただきたいという思いから、今般の総合的な見直し方針案を策定させていただいたものであるとご理解いただきたいと思います。

私からは冒頭以上です。

- 大熊教育長 小学校の連携について、分かりにくいということでありました。先日、市長のほうから、廃園に当たって2園については特別な対応をしてほしいという依頼がありました。それを待たなくても私どもの教育委員会といたしましては、小1プロブレム、小学校1年生に入ったときに子どもたちが不安になるということがありまして、それを解消する

ために様々な施策を考えてはきているんですが、やはり、これから6年後ですかね、この保育園の子どもが、その学年だけになるという状況も考えられますので、そういうことも含めて、小学校との連携をさらに密にするということを、近隣の小学校、ここで言う東小学校になるかと思うんですけど、東小学校の校長に、そういう状況を踏まえて、さらなる連携を図ってほしいということを依頼しました。

しかしながら、学校の教育課程に関することですので、教育委員会がこうしてくれ、ああしてくれと言うのは、実は難しい話でありまして、教育課程の内容は、学校長が責任を持って決めるということになるわけです。

ですから、これから長い時間をかけて、どのような形をするのかというのは、少しずつ形をつくっていただけるものと思っていますし、教育委員会としても、どのような計画がこの保育園の子どもの幸せに寄与するかということと一緒に考えて、教育課程の編成をしていきたいと、そんなふうに考えているところです。

以上です。

○参加者

廃園するから、もう小学校にじゃあ頼ろうみたいな、何かそういうことですよ。質を上げるのも、廃園が進んでいって異年齢保育ができなくなって、子どもたちが寂しいから、じゃあ小学校に頼ろうという、何か小金井市として、保育の質をこうやって上げていきましょう、保つていきましょう、やっていきましょうっていうから、こういうふうに子どもたちの保育環境を変えますというんじゃなくて、もう後手後手というか。やっぱりそこに魅力は、今のお話で全然感じないなというのが正直なところですし、やっぱりどうして廃園になっちゃったのかというのが、ちょっと今のお話でも分からないです。協議を重ねてきたつもりですっておっしゃっているんですけども、やっぱり市民として、保護者として、本当に長年その会に携わってきた方たちは、多分、誰一人としてそういうふうには思っていないと思います。だから、民営化もちゃんと進んでこなかったし。

こういう形で、市がこういうビジョンを持って民営化を進めていきますよ。小金井市の子どもたちをこういうふうに育てていきたいです。だから、こういう民営化はどうでしょうという提案があったら、もっともっと進んできたと思うんですけども、そこを全力でできてくださらなかったからこうなってしまう。そういう形で、急に、またじゃあ廃園だからこうしようって言われても、今現状のお話では全然納得できないですし、やっぱりそうなんであれば、きちっと協議体でお話を進めていただいてやって

いただかないと、私は不安が拭えないなというふうに思います。

以上です。

○事務局（中島） 一回ご意見として聞かせていただきます。

○大熊教育長 教育委員会としては、幼保小の連携は進めていくつもりでいて、子どもたちの幸せのためにはやっていかなければならないものだというふうに思っております。

それで、こういう話が出る前に、この中にも、幼保小の連携は進めるというふうに記載してありまして、市長から今回、特別扱いをしてほしいという形で指示を受けたところです。それで、2校の校長には、ぜひともそういう形で考えてほしいと言ったわけですし、ほかの学校も同じように幼保小の連携は進めていくんですけども、2校の校長には特別にという言い方をさせて、伝えさせていただいております。そこだけご理解いただきたいと思います。

○西岡市長 民間委託のことについてご意見をいただきましたが、もう1点ちょっと追加をさせていただきます。

民間委託をする場合は、事業者の方に手を挙げていただかないと、これ成り立ちません。今の状況で、小金井市の保育園の状況で、本当に果たして手を挙げていただける事業者がいるのかということも非常に重要な観点です。私は、かなりやっぱ環境としては厳しい環境が相当あるというふうに思っています。この建物の状況やいろいろな条件ですね。保育全体の環境を含めて。

そういった意味からも、民間委託については、いろんな比較検討しました。ご覧になっていると思いますが、お配りしている、保育業務の総合的な見直しに係る見直し検討結果報告というものをお配りしていて、これはホームページにアップさせていただいて、恐らくご覧になっていると思いますが、何パターンかについて検証させていただきました。

そういったことも含めると、非常に民間委託については、大きく社会情勢が当時議論していた状況とは変わるということ。私のほうでちょっと申し上げますが、そのときは保護者の方々からも含め、保育士さんが一斉に変わるということに関しては、非常に強い懸念が、ほとんどの方から示されていたという事実があったということはお伝えさせていただきます。

○事務局（中島） 先に手を挙げていただいていた、後ろの方から。

○参加者 本日はこのような場を設けていただきまして、ありがとうございます。

諸事情がありまして今日が初めての参加にはなりますが、夫が運協に関わらせていただいております、この民営化から今、廃園に至る動きというのは、私なりにずっと注視してきたつもりです。その上で、今日やはり説明会に参加して、直接お聞きしたいなと思うところを幾つか聞かせていただきます。

まずどれから聞こうか迷うところなんですけれども、民営化について、あらゆる可能性を排除せず検討されてきたというふうにおっしゃっていらっしゃいますが、既に議論されている内容かもしれないんですが、私、ちょっと見つけられなくて。武蔵野市がされている民営化のやり方で、新武蔵野方式による民営化のやり方というところで言うと、職員は10年間ほど変わらずに、徐々に民営化をしていくというようなやり方。それは先ほど言った事業者に手を挙げてもらうという形ではなくて、市が財団をつくって、そちらに運営を委託していくというやり方があると思うんです。そのやり方ですと、職員は変わらずに運営自体を市から手放していくということができないかと思っております。そちらに関しては、当然ご存じだと思うんですけれども、それができない理由について、再度この場でご説明いただければと思います。

あとは、保育の、今までの議論の全体的な印象として、やはり質の部分が語られずに、量の議論になりやすい部分がとてもあるなと思っております。質の部分で言うと、保育の質の向上というのを、これは、すばらしいこのくりのみ保育園と、もう1園さくら保育園を廃園することによって、具体的にどう向上させていくのかというところの質的な具体案というのが、やっぱり見えていない部分は、どうしても承諾しかねる部分になります。

今、全容として私が体験してきたこととして、子どもを、認可に落選してしまって認証園に通っていたんですけれども、その認証園にいた頃に、やっぱり認可の保育園で、ちょっとここでお名前は出しませんけれども、ちょっと足にあざがいっぱいできて、その園にすることがつらくなって、精神的に母親の方もちょっと病まれてしまって、市のほうに相談して、その認証園に移ってきたという方がいらっしゃったんです。その園に関しては、私も説明会、見学を申し込んでもなかなか受け入れてもらえなかったりとか、見学に行っても入り口から中をのぞき込むような形でしか見学させてもらえなかったりとか。ほかのお母さんに聞いても、やっぱりその園に通わせるのはちょっと不安なんですって言っているお母さんがいっぱいいらっしゃるんです。

当然、今の保育園の質的向上の部分、できていない部分があるというふうに市長はお

っしやっていらっしやっただと思うんですけども、そういった今の小金井市の民営の認可保育園の中に、そういうふうには保護者が不安に思う園があるということについてご認識があるかどうか。私はその園に入れるぐらいだったら、落選してもいいかなということで、その園は除いて応募を、希望園を出したところ、くりのみ以外には入れなかったんです。くりのみも第一希望ではありませんでした。なので、もしくりのみに入れなかったら、多分、仕事を辞めていたと思います。そういう事実があるということもちょっとご認識いただければなと思って今お話をさせていただきました。

その特定の園に関しては、今、東小金井を中心に結構、園の数を増やしている園になります。それがやっぱり今、不安です、その部分が。そういった自分が不安に思う園に子どもを通わせながら働かなきゃいけないお母さんの気持ちというのを考えていただきたいというふうに思います。

すみません、2点目はちょっと自分の個人的な経験の部分もあってのお話になりました。1点目に関しては、新武蔵野方式という民営化のやり方に関して検討したのか、その2点になります。

○事務局（中島） 2点ということで。平岡課長お願いします。

○平岡保育政策担当課長 まず武蔵野の件ですが、他の説明会でも確かに聞かれましたし、これまでの中でも、好事例という言い方がいいんでしょうかね、そういうお話を聞く機会がありました。

私も今、この職を拝命してから5年目になるんですけども、先ほど市長からお話が出たとおり、この案件については、手法とか内容についてはさておき、大分、古い歴史があることだけは共有いただけると思うんです。議論云々ではなくてですね。

私に来る前に、実際に武蔵野に話を聞きに行ったということは聞いておまして、私に来た頃には、武蔵野という選択は難しいという検討の結果が出ていたかなというふうに認識をしています。

これについては、何か詳細な検討結果が残っているというわけではないんですけども、なかなか説明しづらい部分もあるんですが、小金井市自体が、ほかの自治体と比べて、いわゆる第三セクターといいますか、事業団をつくって、準公共的な団体さんを増やして一緒に連携してやっていくというやり方について、過去の歴史的な部分もあり、なかなかネガティブな状況があります。簡単に言うと、天下り先を増やしているというような印象が過去からずっと長くありまして、ほかでも、例えばそういうようなやり方

をしようとした別のセクションでの事例もあったんですが、結果として、そういうような認識が拭えなかったというのは私も記憶しています。

ですので、小金井市の中で、過去には福祉関係ですとか、様々なところで事業団がありました。今思えば、いかどうか分かりませんが、集会施設を管理する事業団、もしくは公社みたいなものもつくっていた時期もあったんです。ですけども、全部そういうのはやめて、今、残っているのは、土地を買い取ったりするためにある土地開発公社というのが、役所の中のセクションの一部としてあるんですけども、そこ以外は残っている状況ではないです。

なので、そもそもそういう形態を取ること自体について、深く歴史的にネガティブだったというところがありましたので、それは要因として大きいのではないかなというふうに、こちらのほうでも思っています。

そうは言いながらも、こちらとしてもそれで終了しているわけではなくて、最近同じような事例として取られたのが国立市さんです。国立市さんは、事業団方式ということで、何年か時間をかけて今動き出しているというふうに聞いてはいるんですけども、やはり事業団、武蔵野さんは財団なんですけれども、というような形になりますと、保育園だけ行っていけばいいということではなくて、もっと広く全体的な事業展開を行っていかねばいけないという状況もありますので、そういった大きな目的を持った団体を立ち上げて運営していくというのは、そういう視点では国立さんもなかなか苦労されているというふうに、中身ではなくて、そういった組織を動かして、軌道に乗せていくというのに苦労されているというようなお話はちょっと聞き取っているところでもありますし、私たちとしても、その事業団が動き出す前のことでしたけれども、最近の事例として、実際お邪魔をして聞きに行ったんですけども、やはりちょっと過去の小金井市の部分も、状況もありましたので、なかなか取りづらい事例ではないかなというふうに、ちょっと私もそういう印象を持って帰ってきたというところがあります。1点目については以上になります。

それから、質の向上の部分のところについてのご意見をいただきました。質の向上のやり方、様々なあるかなというふうに思っています。確かに公立保育園の数を残して、そこを中心として展開していくというやり方を考えられるのも一つだとは思ってはいるんですけども、各自治体さんの中で、比較的多く取っている例の中に、経験ある保育士さんが全体を見たり、連携したりする立場に入ってもらって、それで連携していくとい

う方法を取っている自治体さんもあります。それが全てだと言うつもりはないんですけども、小金井市、他の自治体も含めてですけども、なかなか公務員を純増させる、増やしていくというのはなかなか難しい状況がある中で、やはり行っていただくのであれば、公立で経験を積んだ方々をお願いしていきたいという考え方も市のほうで持っておりましたので、そういった、1人ではなくて、何人か複数人、チーム制で置かせていただくという形と、あとは、園のほうで、この間も説明していますが、なかなか職員さんの確保というのが、公立保育園は正規職員以外の方も含めて皆さんで支えていただいているんですけども、そういった全体的な人員の確保というのが、今、特に公立は難しい状況になっています。処遇とか様々な問題もあるのかもしれないですけども。

そういった形で公立をずっと維持していくというのが、いろんな面で難しくなっているということと、質を確保するために、そういった経験ある人材は、市としては欲しいと。ただ、その方は園ではなくて、市全体を見てもらう部分にもう少し力を、今よりも出してもらいたいというようなところもあって、今回のサービス拡充の巡回支援チームというものを outsourcing させていただいたというのが、小金井の今の考え方となっております。

園の部分のお話については個別のお話となりますので、なかなかこちらのほうできちんとしたコメントはなかなか返しづらいところはあるんですけども、やはり園については、様々な理由で希望が高い園と高くない園があるというのは認識しています。それがどの要因かというところまでは、申し訳ないんですけども、一律にお答えをすることは難しいとは思っていますが、やはり園との連携というのが、今は、民間の園長会という会はありますけれども、もう少し密な連携というのが必要になってくると思っていて、それは今、現場でやっている人たちが忙しい中、時間を割いてやるだけでは難しいという思いもありましたので、そのつなぎ役としての専門職が欲しいというようなところもあって、その巡回というのを今回 outsourcing させていただいているというところがあります。

不十分だというご指摘は、いろんなところでも受けておりますが、市のほうでも考え方はというご質問だったと思いますので、考え方としては、そういう考え方でこのプランを、後半のところですね。廃園というところよりは、質をどうしていくのかというご質問のところについては、後半書かせていただいたのは、そういうコンセプトで考えさせていただいているというようなことでお答えをさせていただきます。

ちょっと不足とか、行き違いがあったらご指摘をいただければと思います。

○参加者

ありがとうございました。ちょっとやっぱり個別の園の話なのでという部分で行き違いがあったかなと思います。今の回答で私が得たかった理解の得られる回答はもらえていないというのが、はっきり申し上げておきたいと思います。

あとは、新武蔵野方式のやり方が歴史的にネガティブでというのは、とっても内部的な小金井市政側の問題であって、ちょっとそこも理解に苦しむというか、検討結果の詳細も残っていないということで、これ以上こちらとしても理解を深めることができないのかなというふうに感じました。

あとは、この説明会なんですけれども、紙面上に書かれていることの質問をこちらが投げかけると、紙面上に書かれていることに立ち戻っての回答が返ってきて、これじゃない感が結構あるんですよね、回答が返ってきて。なので、この説明会の意図として、先ほど市長は、市民との対話とおっしゃいました。相互理解。賛否を問うのではなく、相互理解の場だというふうにおっしゃいました。それは本当にそのとおりだと思っていて、説明会ではなく対話の機会だと、我々もずっと認識しながら関わってきていると思います。

ただ、この15回。量としては15回やられてきたというのが、量としては事実として残ります。ただ、その質の部分として、この理解度、KPIみたいなもので、この場が、これだけの時間を多くの方が割いて、どれだけの相互理解が得られたのかという部分の、質的な効果測定みたいなものが一切されていないです。そこ自体が、やっぱり、もうこの説明会をやったという事実を大切にされていらっしゃるのかなというふうに感じてしまいます。どうしても。夫は運協をやっていますけれども、どうしても、のれんに腕押しな感じがして、もうこっちも育児で忙しい中やっているので、もう何かどうしましょうという気持ちにもなるんですけれども、それでも振り絞ってこうやってこの場に来ているんです、私たち。そこをちゃんと理解してください。

なので、今からでも遅くないと思うので、今まで参加された方にメールでも紙面でも何でもいいので投げてください、その理解度に関するアンケートでもいいので、その効果測定をされたものをしっかり公表していただくというのもやっぱり、量としての事実だけでなく、この場でどういう、こちら側の気持ちが酌まれたという実感を私たちが持てたのかという部分は、ちゃんと市長のこの説明会の実績として残していただきたいなというふうに思います。

以上です。

○西岡市長 様々なご意見、ご要望を聞かせていただきました。ありがとうございます。

改めて感謝を申し上げますが、皆様が貴重な平日の夜であったり、土日に大変長い時間をこうしていただいて、この説明会にご参加いただけることには、冒頭も心から感謝を申し上げましたけれども、改めて御礼と感謝を申し上げます。ありがとうございます。

そして、別に回数の実績を上げているわけではなくて、中身が大事だということももう十分分かっておりますし、また、対象園が3園ありますが、3園の保護者の方々にはそれぞれ、4回ずつになります。それはもう当然、必要な回数ということで設定させていただいてありますし、皆様方もご予定やお仕事がありますので、なるべく参加できるように。

それから、いろんなご意見、ご感想、また、いろんなお声を聞くということでは、一番最初に、全保護者の皆様方に意見シートもお配りをさせていただいて、文書で回答もさせていただいております。大切なことは、もちろん保護者の方々の声だと思っております。そういった声を受けて、私も、まずは16回、明日の日曜日になるんですけども、そちらの会にも出席させていただいて、その全体の声を受けて、今後の、冒頭、申し上げましたけれども、判断は、市長として総合的に判断をさせていただきたいと考えております。

いろんなご意見をいただいておりますが、1問目、2問目ということにつきましては、先ほど担当からも答弁させていただきましたが、運協の皆様方にも大変ご尽力をいただいていることには本当に感謝をしております。もう歴史的に小金井は運協の皆様方とは、長い間かなり時間もかけて協議をさせていただいております。どうぞよろしく願いいたします。

○事務局（中島） 一回切らせていただいてよろしいですか。

それでは先に2列目の方。

○参加者 最初におっしゃった、平成9年から長きにわたり検討してきたところを聞いても、さっき途中で入ってしまったんですけども。運協は夜遅い時間、小さい子どもがいる保護者が、ものすごい時間をかけて、すごい長い時間をかけて、期間をかけて協議してきた、それと全く関係ない結果がぼんって、廃園って出てきたのに、検討してきた、議論が尽くされたみたいなことでは、ちょっとあまりにつじつまが合わないと思っています。ずっと運協で話してきたこと、議論を積み重ねてきた結果が廃園だとは、誰も理解していないと思います。

それに、運協ではずっと公立保育園の役割については検討されていませんし、議論されていません。公立園の役割について、よく分からないと言われてたらそこまで終わってしまう。それでいいのかとも思います。あれだけ長い時間をかけて、たくさんの時間を使ってきたことに心から感謝しますの一言で、全く関係ない結論を持ってこられている現状に、とても納得がいきません。なぜ公立園の役割について、この何年間かずっと議論しないできて明確化はしないのか。かたくなにそれを明確化しないのか、ちょっとよく分からないです。

ちょっと冒頭の市長のその役割、議論を積み重ねて長年にわたり検討をしてきた結果、廃園の結論に至ったような説明は、とても納得しかねるなと思います。結局、今までの議論を無視した結果、結論だと思います。

あとは、先ほどの方とほぼ同じようなことで、民間園ですごい不満があって、市に不満を伝えても、全然解明されないという話は聞きます。今回、公立園がされちゃうんだというお話を、署名のときに、周りの保護者に聞いたところ、いい保育園残したほうがいいよね、何々園最低だからって、子どもを通わせながら、その園のことを、うちの園は最低だという保護者の方もいらっしゃいます。

本当に小金井市の保育、今後、質、向上できるのかなと、本当にそれが心配です。大体、質の向上をどうするのかと言うと巡回チームの話が出てきて、それ以上のことが出てこないというのがこれまで繰り返されていることなんですけれども。とても不安です。

私はもう、あと2年ぐらいで下の子が卒園しますので、今後の小金井市全体の保育の質を心配しているんですけれども。

多分これについて、プラスアルファの答えがなかったら、答えは必要ないです。巡回チーム以外の方法がないんだったら、質の向上に関しては特に返答はいりません。ただ、議論はし尽くされていないですよということだけは共有したいと思います。

以上です。

○西岡市長

ご質問いただきまして、また、ご意見をいただきましてありがとうございます。

私が申し上げましたのは、この保育園の件に関しては、長い間議論がありました。そして、保育園はどうしても人が変わっていく、担当者も時に異動してしまうんですけれども、いわゆるこの25年間の間、私も25年前からずっと全ての現場を見てきたわけではもちろんありません。市長に就任したのは7年前です。市議会議員としては平成9年からちょうど8年間ほど務めていましたが、議会の側から公立保育園の件については、

見てはおりました。

そういう状況の中で、この間、公立保育園の方向性などについて結論が出たことはないんです。ずっと議論はしていました。協議もしていました。しかし、結論が出たことはありません。

そういう状況の中で、社会情勢の変化や、先ほど申し上げました大きな5つの観点、こういったものを考えたときに、公立保育園の経営主体として、経営主体が考えなければいけないことなので、この公立保育園の将来の在り方というのはですね。なので、方針案という形でお示しを今させていただいたものでございます。

「保育の質の維持・向上に向けて」というところで、重要なところは、この小金井市の保育すこやかビジョンがございしますが、この48、49ページのところに書いてあることが非常に重要だと思っています。これは小金井市の計画です。「保育の質の維持・向上に当たっては、各現場で目の前の実際の子どもの姿をもとに、保育実践をより良いものにしていく取組が日常的・継続的に行われることが重要です。小金井市は、子どもの最善の利益を保障するため、保育現場の保育者一人ひとりの自らの資質や専門性の向上を図る取組を支援するとともに、小金井市として次の取組を推進することで、地域全体の保育の質の維持・向上を図ります。」としております。

1点目が、保育の質のガイドラインの活用でございます。

そして2点目が、保育者の研修であります。

3点目が、各種評価の実施。先ほど申し上げました、福祉サービス第三者評価の受審費用の助成の継続、外部評価の実施の促進などです。また、国の「保育所における自己評価ガイドライン」の積極的な活用も推進するとしています。

4点目が、これ非常に重要です。保育士の確保。これは非常に重要です。民間保育園であっても、やはり保育士さんが定着する、なるべく長い間そこでお仕事ができる環境をしっかりと整えるということが大切だと私は思っておりまして、これはもう、公立民間ともにですけれども、以前は保育士の離職率というものが結構、社会問題にもなりました。また処遇の問題で、いろいろと課題があったところを、国や東京都、小金井市もいろいろ努力いたしまして、民間の側で働いていらっしゃる保育士の方々の処遇の改善にも努めてきたところですが、ここも引き続き努力をしてまいりたいと思っております。

5点目が、保育分野におけるネットワークづくりです。特にこの辺のところは、巡回チームに大変大きな、これは役割だと思っております、この中に「（仮称）巡回保

育支援チーム」を含めた保育者全体の専門性の向上を図るため、「（仮称）幼児教育・保育アドバイザー」の設置等、さらなる体制整備を検討し推進します。」と明記いたしました。

6点目が、幼保小の連携ということで、この中にもしっかりと明記はさせていただいております。小学校との接続をやはり切れ目のない子育て支援という観点から考えていくということ。「子どもの学びや発達が円滑に接続していくよう、幼稚園・認定こども園・保育施設と小学校の連携が必要です。小金井市では子どもの健やかな成長のために、他の地域の保育施設、幼稚園、認定こども園に通う児童についても配慮しつつ、教育委員会と連携して幼保小連携を推進していきます。」と明記をさせていただきました。

なお、この保育計画すこやかビジョンと質のガイドラインは約1年6か月、コロナの関係もあったので1年10か月、非常に長い間、専門家の方、保育園関係者の方、保護者の方、皆様方で非常に熱い議論をしていただいて、一生懸命つくり上げたものです。この計画の策定も遅いというご批判もいただきましたけれども、今までなかったんですね、小金井市に保育計画が。それを、遅いかもしれませんが策定をしましたから、策定をした以上、これを進めていくのは小金井市の責任でありますので、時間の関係で詳細なご説明はできませんでしたが、この保育の質の維持・向上に向けて、今申し上げたことを、小金井市がリーダーシップを取って行っていくということが非常に重要であります。そのようにご答弁させていただきたいと思っております。

○大熊教育長 教育の視点からなんですけれども、保育の質ということについて少しお話をさせていただきたいと思っております。

保育の質と言われるもので私どもが分かっていることに関して言うと、いわゆる保育園の考え方というのは多様にあるというふうに学校では捉えています。いわゆる自由保育であるとか、子ども中心であるとか、学習に重きを置いた保育園もありますので、そういう意味では、どのように保育をするということは、一定ではなく、どういうふうに行っているのかというのは学校では把握をしているところがありまして、それが、どれがいいとか悪いとかということじゃないんですけれども、多様であるということ捉えております。

保育の質ということなんですけれども、今後、伝統を守る。これまでのことを継続するということは、実は学校でも先日の校長会でも新しい指導方法を、いわゆる授業改革をしなければならないと。強烈にお願いをしているところでありまして、いわゆる新し

い時代を生きるための子どもたちに身につけさせなければならない資質というのが、今どんどん変わっています。ですから、小学校に入学されると分かると思うんですけども、小学校1年生からコンピューターを使っているんなことをやるなんていうことに今なっているわけです。そういう時代にいる子どもたちに、保育の時間にどういうことをしていったらいいのかというのは、絶えず新たに検討していかなければならないというふうに僕は考えているし、そういうふうにすることが幼保小の連携のスムーズな接続ができるんではないかなというふうに考えているところです。

そういうふうなこと、いわゆる新しい保育の内容を考えていくということを考えたとき、様々な保育園があって、そういうところにある一定の保育の質を向上させようといったときに、どのようにしていったらいいかということで、同じことを繰り返さないでほしいというふうに言われましたけれども、小金井市としてできることは巡回指導員の配置ということになって、この巡回指導員は、やはり学校との連携とか、学校の指導内容とか、それから新しい子どもたち、新しい時代を生きる子どもたちにはどういうことが必要なかというのを、十分に学校と連携を取っていただきまして、新しい保育を共に考えていければいいかなと、そんなふうに教育委員会としては思っているところです。

以上です。

○事務局（中島） 一回よろしいですか。

次に、先に手を挙げていただいた2列目奥の方。じゃあその次に隣の方。

○参加者 冒頭で今後でスケジュールについて市長さんのほうから説明がありましたけれども、明日で一旦予定されている会は終わると思うんですけども、総合的な判断でこの案を先に進めるか考えるということでしたけれども、第1回の議事録を読めるところは読みましたけれども、市民説明会のほとんどは、時間がもうこれ以上使えないということで、途中でまだ言いたいことがあっただろうに打ち切られたような印象の議事録ばかりでした。

今回の第2回が、今までどういうふうな感じだったかは分かりませんが、今日の会も取りあえず、よく分からない、理解ができないという声しか出ていないと思います。ですので、その声を無視して、総合的に市長さんは判断されて、3月の条例提案を、あとは議会に判断してもらおうみたいな、そういう乱暴なことをしないように、ぜひお願いしたいと思います。

あとは、すこやか保育ビジョンを策定して、それから市全体の保育の質を上げていこ

うとしているところで、保育士の巡回サービスを一番に考えてらっしゃるのかなと思うんですけども、まだやったことのないサービスで、これがうまくいくかも分からない。この巡回サービスでどれだけ保育の質が上がるのかが疑問で、全く見えてこないです。

これは一例で、私が考えたことなんですけれども、今のうちに公立保育園がやっているような満足度のアンケートを、今の市内の民間保育園でもやってみて、そのサービスの後で、これだけ保育の質に深く関わる部分が市全体の民間保育園でも少し上がったということになれば、今後の市内の保育園の保育も質が保てるのかなという、少しは期待や安心感はありますけれども。

そうやって、こんなにすばらしい保育園を潰してまで、こういうサービスをやるのであれば、これなら市内の保育の質がちゃんと保てそうだなという安心できる策を市側から提示してほしいと思います。この巡回サービスがもし失敗に終わったらどうするつもりなのかなというのがすごく疑問で、何の保証もないじゃないですか。何か大きい事業というのは、前後の客観的な評価が必要だと思うので、そういうこともやらずに、絵空事で、この巡回サービスできっとよくなるはずというのでは、この保育園を廃園にしてまでやるべきことじゃないと思っています。

巡回サービスは、令和7年から試行実施というふうに12ページに書いてあるので、ということは、廃園にする前から、少しずつやっていくことなのかなと思うんですけども、その間、不足する公立保育園の保育士は新たに募集してほしいと思います。公立保育園の人員の確保が難しいというようなことをおっしゃっていましたが、募集をかけるのが他の市のように、ちゃんと夏頃にやってくだされれば集まることだと思います。小金井市が募集するのが時期が遅いだけだと思います。

あとは、子どもの安全を一番に考えてくださっているというのは、すごく分かりますけれども、あとは将来にわたって5園を運営していくのが難しいということも分かりました。でも、耐震補強工事が完了して、躯体の安全は保っているということを知りましたので、保育の質を保つために必要な策を講じて、それを評価、修正したり、このサービスで大丈夫？と確認するその間は、長寿命化したりとか、メンテナンスで建物を保っていけばよろしいのではないかなと思います。

これから廃園する園のために長寿命化とか、補修のためのお金をかけたくないとか、廃園前にもう人を募集して、人件費を増やしたくないとか、そういうふうなお考えでしたら、保育の質よりも本当に保育とか子どものためにお金を使いたくない自治体なんだ

など、そういう印象を持ちます。

あとは、特別な配慮が必要な子どもの担当は、前の市民説明会の議事録を読んだところで、民間には補助金を用意しているけれども人材確保が難しいというようなことがご答弁の中にありました。公立も公務員だからそれはあって、必要な加配が可能になるのではないのでしょうかというところが疑問に思いました。

以上です。

○西岡市長

ありがとうございます。たくさんのご意見、ご質問をいただきました。答弁漏れがありましたらすみません、一生懸命メモをしているんですけども、ご指摘いただければと思います。申し訳ございません。

それでは、まず冒頭申し上げましたように、今日この後、午後、そして明日2回ありますので、まずはこの説明会にしっかり臨ませていただきたいと思っております。もちろんこの後の時間がある限りご意見をお聞かせください。

私の印象としては、これまでの12回の説明会で、時間がなくて打ち切ったという会があまりないと思うんです。その場で納得のいくお答えができなかったということはあるかもしれませんが、打ち切ったってことはなく、可能な限り1時間、2時間でも可能な限り、皆様方のご予定があるので。ただ、実はお子さんもお預かりしているという現状もあるものですから、そういったことも判断しながらやってきたんですが、ある段階で、質問者がいっぱい手を挙げてるのに、ばちっと終了して打ち切っちゃったというのはないような思いはあるんですけども、最大限、ちょっと答弁が長いというご指摘もあるんですが、こちらも一生懸命お伝えしたいことがあるので、どうかその辺はご容赦いただきたいと思います。可能な限り私たちもスケジュールのことはあるんですが、努力はしてきたと思っております。

それでは、巡回サービスのことについても言われております。こういう段階的縮小から廃園ということをするからには、安心できる小金井市の保育の質の向上につながっていく案をぜひ提示してほしいということでございました。12ページに、前回お答えしたと思うんですけども、私たちが行っている大きな6項目については、明記をさせていただいております。

ここに書いていることが、もちろんご指摘されるような絵空事になってしまっっては、もう絶対にいけないというふうに思います。これは必ず実践しなければいけないことでありまして。私たちも行政ですから、お出しする以上、しっかり取り組めるという確証

なり算段なりある程度の内部の検討は踏まえて出していますので、思いつきで書いていくわけではありません。

したがって、その6項目については、保育サービスの今までやってきたけれども、拡充するもの、新たに取り組むべきもの、こういったことについてはしっかり取り組んでいくという責任が含まれております。

それから、保育の必要、長寿化、建物の対策。子どもに対して、施設の老朽化に対して、対応がしないという市の判断であれば、小金井市はお金や子どもに対するお金をかけていない自治体と判断せざるを得ないというような指摘もいただきました。財源には限りがあるということは、どうかご理解をいただきたいと思います。私たち、打ち出の小槌、欲しいですけれども持っていません。限られた財源で一生懸命、市民サービスの向上に取り組んでいるところです。そのような中であっても、特に私は、市長としては、子育て・子育て・教育環境の向上こそが小金井市のまちの発展につながる。子育て・子育て・教育環境の向上こそが、小金井市の持続可能なまちにつながっていく。私自身も小金井で育てていただいた人間です。地域の方々にもお世話になり、育てていただいた今日まで、感謝の気持ちでいっぱいです。そして、小金井市で誕生した命、あるいは途中から小金井市に越されてきた方も含めて、小金井で育つ全ての命を私は大切にしなければいけないと、心の底から考えています。それは決してお金の、金額の多寡だけではなくて、地域の力、まちの力、小金井市の全体の総合力で子育て・子育て・教育環境の向上に努力していくと。そういうまちでありたいと思っています。

その中で、予算的なことだけで申し上げれば、児童福祉費というのがあるんですけども、市長に就任する前は約70億円ぐらい。三多摩26市で平成26年、27年、初めて参加した方もいらっしゃると思いますが、お恥ずかしながら、正直に申し上げれば、小金井市は平成26年、27年、児童福祉費、子どもたちにかけて、これは教育費は入っていません、保育園の。これ三多摩のワーストなんです。市民1人当たりの金額が、たしか5万5,000円です。ビリでした。令和2年の決算で、昨年です。令和2年の最終の決算では、1人当たりの児童福祉費が約10万5,000円で、約120億円以上の予算ですが、比率としては、初めて多摩地域で1位になりました。どの自治体も、みんな子育てには頑張っています。ある種の競争的などころもありますが、そんな状況の中で1位になるのは、なかなか難しかったとは思いますが、でも、先ほど申し上げたように、金額の多寡ではありません。予算をかけたからと言って、それが子どもたちの

環境になっているかというのは、また別問題だと思っています。

しかし、行政としてやるべきメニューをしっかりと増やす、サービスを拡充していくためには必要な判断。小金井市は一般会計の予算が大体450億円ぐらいで、そのうちの児童福祉費が約120億円。民生費は全部で236億円なんです。236億円のうち、約120億円が児童福祉費です。そこに教育費の予算をプラスすると、教育費が大体42億なので、約160億円ぐらいということになっています。

残念ながら教育費については、多摩地域で1人当たりのかけている金額が、これワーストワンであったり、25位だったり、24位だったりします。そんな中でも今、大熊教育長に頑張っていただいています。子どもたちの教育についても、私たちはもっと財源を振り向けていきたいと思っています。

そういう意味で、今日は質問に出ていませんが、今般の段階的縮小から廃園ということで、約27億4,000万円の財源効果を試算として上げさせていただいています。この全ては、子育て・子育て・教育環境や、妊娠、出産など、そういった児童福祉費や教育費など、こういった分野に充てていくというのが市長の方針です。したがって、財源には限りがありますが、これからも右肩上がりとなる様々なニーズにはしっかりと応えていきたいというふうに市長としては考えていることは、ぜひお伝えさせていただきたいと思っております。

○平岡保育政策担当課長 人の確保のお話のところ、こちらのほうで以前お答えした内容がちょっと不十分だったところ等がありまして、ご指摘を受けた会もありました。おっしゃるとおり、まず小金井市の保育士さんの新規職員の採用のタイミングが遅いというのは、おっしゃっているとおりです。それによって、なかなか人が集まらないというご指摘も受けまして、確かにそのとおりです。公務員の場合、多めに人を採っておくということが基本的にできないので、他市さんの場合は、基本的にはなんです。定年退職の方がコンスタントにいらっしゃるの、その方々、最初からはっきりしているの、春先とか夏とかに試験ができるという状況があります。

小金井市の現状で申し上げますと、しばらくそういう対象の方がいらっしゃらないので、ご本人の急なご事情で退職をされるというお話が出てから試験をやっていくということになりますので、そうなりますと、冬とかに新たな方が必要になるというのがはっきりしてきて、試験をしているという状況があるので、誰が悪いということではないんですけれども、先に試験を、今の状況ですと出すことができないというのが、答えとしては

そうなるかなと思っています。

先ほど少し人のお話をしたのは、保育園、ご存じのとおり、非正規の方も大勢支えていただいている状況がありますけれども、以前よりも多様な働き方に対して、様々な働き口があったり、様々なご事情があったりして、以前よりも、やはり集まるのが厳しいというのは、公立民間問わずあるというふうに思っています。ですので、民間のほうにも補助は出しているんですが、昔よりも十分余裕を持って人が集まってこないというようなお話を聞いているというのも事実ですし、公立保育園のほうでもなかなか、例えば、特別な配慮が必要なお子さんのためについていただきたい方について募集をしたときに、来ていただけないときも、全て毎回募集したときに来ていただける状況ではなかったというのは、ここ何年かの中であると思いますので。

そういう様々な働き方の中での人材確保と、小金井市の正規職員の今の現状などから難しい状況があるということだけは、ちょっと補足をさせていただきます。

以上です。

○事務局（中島） 一回じゃあ切らせていただきまして、それでは2列目の2番目の方で。

すみません、ここでちょっと残り時間も短くなってきまして、あとご発言をご希望されている方の人数を確認させていただいてよろしいですか。じゃあまずは3人いらっしゃる。

○参加者 あと、今、すみません、トイレに行っているんですけども、妻も聞きたいことがあると言っていました。

○事務局（中島） じゃあ4名ということで、ありがとうございます。

○参加者 すみません、今まで皆様質問されてきたこととかぶるところもあると思うんですけども、冒頭、市長が財政難、厳しいというお話をされていて、就任されたときから公立5園の維持は難しいと思っていらっしゃったということだったんですけども、だとしたら、もうそのときから、平成27年に就任されたと言っていて、そのときって、もう既に民営化の話が出ていて、だったら、そのときにもう民営化するのか、廃園なのか、はたまた他の方法なのか、何かそのときに言ってほしかったなと思います。

先ほど、女性から新武蔵野方式というのがあるとか、ほかの自治体とか、全国を見たら、多分ほかのいろんな事例があると思っていて、それをうまく小金井市に代用して、できるだけ子どもの負担を少なくとか、保護者の負担を少なくとか、幾らでも議論する余地があったのではないかなと思っています。

多分、皆さんが納得していないのは、子ども放ったらかしだし、保護者のことも放ったらかしだし、突然、今年の8月にべらっと紙が来て、意見があれば意見シートを書いてくださいという、すごく乱暴なやり方に皆さん納得いってなくて。くりのみ、さくらが老朽化しているということは皆さんご存じなので、最終的に民営化してしまうとか、それは仕方がないことだとは思うんですけれども、そのやり方に対して、どうしても腑に落ちなくて。

先ほど新武蔵野方式は難しいというお答えがあったと思うんですけれども、何で難しいのかという、その理由はちょっと教えていただきたいです。

過去の書類、残っていなかったということなんですけれども、それならば、今からでも調べてほしくて、なぜなのかという、そこは逆に疑問に思わなかったのかなと思っています。そこを調べて回答いただきたいです。

あと、まだもう1個。1年延伸していただきましたけれども、その1年間でどうしても、もう10か月後には令和5年度の募集が始まるので、もうあんまり時間がないですけれども、残りの1年間延伸したことで、あらゆる可能性を排除しないで、廃園以外の方法も検討していただきたいなと思っています。何か多分、小金井市側としては、廃園ありきで進めているとは思うんですけれども、1年延伸したのであれば、その間にもう少し検討していただきたいと思っています。お願いします。

○西岡市長 市長就任のときから、もう少し早く、いろんな検討をして欲しかったということについて、私が市長に就任したときは、保育園検討協議会の審議の真っ最中で、たしか両論併記だったのですね、答申をいただいたんです。そこからスタートして、両論併記なんです。そこからスタートなんです。

そして、民営化方針について運協の皆様方と協議をスタートいたしましたけれども、一定のやはりお互いの準備状況を整えたりとか、運営協議会の方々も時に世代交代というか、人事も代わったりしますから、そういった状況の中で協議をしていくという状況ですね。当時は確かに民営化ということで、私たちが労使合意をしたりした経過はありますが、しかしながら、運営協議会の皆様方との議論がずっと続いていたという状況があります。

あの時と今とは、やはり社会経済情勢、保育の制度、さらにその間に建物の状況、市の財政、私が冒頭から申し上げている5つの観点というのがやはり大きく変わってきたということになりまして、7年経過をしたことによって状況は変化してきているという

状況の中で判断をさせていただいて、案という形でお示しをしているということがございます。

○平岡保育政策担当課長 すみません、武蔵野の件、ご理解いただけないところなんですけれども、基本的に先ほど私のほうでちょっとぼわっとした言い方をさせていただいたかなと思っ
ているんですが、基本的に小金井市の職員がほかの新しい準公共的な団体ができて、そ
ちらのほうに派遣なり、移って仕事をしていくというようなやり方については、過去
に様々な事業団ですとか、公社をつくってやってきた小金井市の中では、市役所の中
ではそれでいいということでやってきていましたけれども、市議会等でも、要は職員を天
下りさせている口をどんどん増やしているんだというようなお話がとても大きかったと
いうふうに認識しています。ですので、あるときを境として、時代の流れとして役割を
終えたものもあつたかもしれませんけれども、そういうものについて少しずつ減らして
いった。減らしていくべきだという風潮が以前からあつて今に至っているというふう
に認識をしています。

ですので、ここでまた新たに小金井市の保育士さんの行き先を設けるかのようにも見
える財団をつくってやっていくというのは難しいというような、役所の中ですけれども、
判断だったというふうに私も、その程度のことは説明として聞いています。

ですので、大分時間もたっているし、中身も違うのでというお話も分かります。議会
でも過去にそういったご質問いただいたこともありましたけれども、ただ、市のほうと
しては、過去からずっとそういう歴史を持ってきた小金井市でありますので、選択とし
ては取りえないというような考え方で判断をさせていただいたというのは事実でありま
す。

それから、もう1点。あらゆる検討をというようなお話もございましたけれども、私
たちとしては今、こういう考え方を持っていますということで、こういう形でお話をさ
せていただいているという状況でありますので、また、あらゆる可能性をというところ
については、なかなか行いますというお答えはちょっとしにくいかなというふうに思っ
ておりますけれども、先ほどちょっと市長のほうからも、この間の検討経過などのお話
もあつて、いろいろちょっとご指摘もいただいたので、時間がない中、恐縮なんですけ
れども。確かに運協さんとは民営化の協議はしていないというのは、改めて表明はさせ
ていただきます。協議をするための資料を出してくださいというお話をいただいでいて、
その資料が出ていないので協議に入れていないというまとめになっていたかと思ひます

ので、当時の委員さんの立場としては、協議をしたということについてちょっと疑義が出るのかなと思いましたが、そのように訂正はさせていただきますけれども、市としては、協議をしていただくために、そのときにらせる資料を出させていただいたというのは事実ですので、私たちとしては、協議をさせていただきたいという立場で、運協には臨んでいた期間があったというのは事実でございます。

以上です。

○事務局（中島） 一回よろしいですか。

じゃあ最初に手を挙げていただいていた、前の男性の方。

○参加者 ちよっとお時間が短い中、恐縮なんですけれども、まずは、このような場を開いていただき大変感謝しております。市長もいろいろ、奥さまと結婚されて、奥さんは大変な時期だと思うんですけれども変わりなく公務いただいて、大変感謝しています。

まずちよっと2点ほどあるんですけれども、まず1点目。これは、ごめんなさい。この場は対話の場であって、個人攻撃するつもりは全くないんですけれども、相互理解をするための場であるということで、先ほどご答弁いただいている内容で、先ほどからご答弁で、難しいという表現をたくさんいただいております。厚生文教委員会でも、「なかなか難しい」。厚生文教委員会の文字起こしとかをずっとさせていただいている関係で、言葉尻を捉えている表現で申し訳ないんですけれども、保護者側も感情的に難しいという表現を使われてしまうと、こちら理解しづらいし、こちらの気持ちも理解をさせていただいていないんじゃないかと。というのを、まずご理解をいただきたいと思えます。

上から目線で申し訳ないんですけれども、仕事でやっつけらっしゃるので、難しいのは当たり前部分もあると思います。そこを本当に真剣に取り組んでいただいているのかと疑問に思ってしまうところはございます。最初にも申し上げましたが、決して個人攻撃する意図はないんですけれども。もちろん平岡課長もすごく知識も豊富で、いろいろと市民のためを思ってお仕事されているというのは分かるんですけれども、どうしても言葉の端々でそういうのが気になってしましまして、相互理解からはちよっと離れてしまう、というのが気になる1点です。

2点目にちよっといい話をさせていただくと、今日、子どもを隣の部屋で預けさせていただいております。今日、いつもと違う部屋で子どもを預けるに当たって、ちよっとぐずったんですね。この部屋に行きたくないとか。ところが、その部屋に入ると、いつ

も見ていただいている先生が、●●●先生がいらっしゃって、もういきなり元気になりまして、やはり保育における職務というか、人というのが大事なんだなというのは、非常に分かったんですけども。現状、段階的縮小をしていく上で、職員の方が廃園する保育園に本当に残っていただけるのか、そこはちょっと疑問に思っているところではあります。もちろん責任感を持って、子どもに愛情を持って接していただいている職員の方であるのは分かっているんですけども、保育士は今、売り手市場になって、私が言うまでもなく、保育士の確保は非常に大変な時期であり、民間のところから優秀な保育士さんは、ぜひうちに来てくれという状況が多々あると思われまます。

そういう状況であったときに、この公立保育園、くりのみ保育園から別の保育園に再就職といいますか、されるというキャリアプランも当然出てきてしまうと思うんです。その部分も含めて、ちょっとこの辺の議論がなされていないかなと思っております。例えば、巡回保育チームを立ち上げてそこに行きますよとか、その辺もまだすごく不明確です。

その辺りの今後、本当はくりのみ保育園なくなってほしくないんですけども、もし段階的縮小を経て廃園するというのであれば、職員の方が最後まで、何というんですか、残っていただけるというのは、こちらも安心して残っていただけるんだなというのは、何かしらで示していただきたいし、それが変な話、ここの園舎は残るけれども、何かみんな辞めていっちゃって、経験1年目、2年目の保育士さんだけで回すようなくりのみ保育園であっては、別に、それは私としてはくりのみ保育園ではないので。そういったところのすり合わせとかを十分していただきたいと思っております。

○西岡市長

ありがとうございます。最初にご指摘いただきました行政的にどうしても最後に締める言葉が、難しいという言葉が多いということに対して、残念だという思いだと思います。しっかり受け止めさせていただきたいと存じます。

それから、私たち行政は、市民生活を支え、そして、全体の奉仕者として、市全体のことを市長としては考えなければいけないという、そういう責任もあるということも、どうかご理解いただきたいと思います。

人事の関係なので、後ほど課長から詳細お答えしますが、まずこの段階的縮小をする過程の中で、たとえ令和9年度に5歳児の方が、仮定ですよ、あくまでも。お一人になってしまったとしても、給食、看護師、そして必要な保育士は、必ず体制としては確保いたします。

そして、3歳、4歳、5歳児のみ、4歳、5歳児のみ、5歳児のみと段階的になっていくわけではありますが、その過程にあっても、必要な保育士体制は、しっかりと常に確保する。これは当然のことです。

さらに、ここから先は人事の話になるんですけども、一般的に申し上げれば、くりのみ保育園でずっと限定でという条件で採用したわけではございませんので、何年かに1回異動もあつたりしますし、そのことは職員の方も十分認識してお仕事をされているかと思います。もちろん自分の務めている保育園への愛着とか、強い思いがあるのは当然です。そして、小金井市の公立保育園、保護者の皆様方に、大変高いご評価をいただいていることも、大変感謝をしたいと思っております。

したがって、この段階的縮小の過程の中で、職員体制はしっかりと確保する。これはもう当然のことになります。そして、ここで働いているくりのみ保育園の保育者の、正規職員、任期付職員、会計年度任用職員さん、いろんな職種の方がいらっしゃいます。この確保をするのは、ほぼ常に常時人を募集しているような状況です。職員募集を見ていただければ分かりますが、この公立保育園の体制確保が、あまり大変だ大変だという言葉、使いたくないんですけども、私たちも必死に体制確保には努めているというのが現状であります。どうしても、この段階的縮小がなくても、普通退職というのがどうしても出てしまうんです。これまでもそうでした、正直申し上げます。

なので、その普通退職に対しては、市長としては、正規職員の場合は欠員補充ということで、この間、人の募集を続けてきました。それは、遅いというご指摘をいただいたんですが、急に出てしまうんです、年度末になって出てしまう例もあって、それでも4月の1日からはちゃんと確保しなければいけないということもあるので、緊急に募集をせざるを得ないという状況もあるんですね。ここは本当に大変なところなんですけれども。

したがって、一般論として申し上げればそういうことです。なので、私としては、くりのみ、もちろん、さくら保育園でお仕事をいただいている保育士さん、一生懸命頑張っていたきたいと思っております。しかしその後においては、小金井保育園、けやき保育園などでお仕事をいただくことになると思いますし、また、経験豊富な方につきましては巡回チーム、保育課のほうでお仕事をいただくということにもなると思っておりますし、その人事については適切にしっかり対応させていただきたいと考えております。

○大熊教育長　いわゆる対話ということで、相互理解ということなんですけれども、その辺ちょっと付け足しをさせていただきたいと思います。当初の説明会では、私は参加していませんでした。それで、市の仕事のことになりますけれども、私は教育長であるんですけれども、理事者の1人として保育課の人たちがこういう状況にあるということを聞いてきました。それで、先ほども言いましたように、幼保小の連携はやらなければならないというふうには前から思っておって、先ほども、明日の小金井教育プランに書いてあったんですが、市長から、特別な対応をしてほしいというふうに依頼を受け、そのことを受けて、学校にもしっかり連絡し、そのことを皆さんにも少し理解をしていただこうとして、皆さんの要望に応えるという形で、私も責任ある立場として、皆さんに説明をしているという、これは、当初にはなかったはずの問題で、少しずつ皆さんのご意見を聞きながら、小金井市としての対応を考えているというところです。

それから、巡回指導員のことに関しても、先ほど説明させていただきましたけど、小学校が新しく変わっていくということを考えた場合、こういう言い方は失礼かもしれないけれども、巡回指導の内容も今までの伝統的な保育プラス、新しさも必要だというふうに考えておりますので、その点では教育委員会と巡回指導員の連携を図りながら、新しい保育についても検討をしていければなというふうに思っているところです。

ですから、同じことを繰り返しているというふうには私は思わなくて、皆さんのご要望を少しでもかなえたいと思ひまして、私自身も市長の命を受けているんですけれども、皆さんに少しでも説明できればいいかなというふうに思っ、ここで参加させていただいているというところをご理解いただきたいと思います。

以上です。

○平岡保育政策担当課長　私の発言に対するご指摘をいただいたようなので、時間がないのに申し訳ないんですが。確かに自分が臨んでいる中で、難しいという言葉をよく使っているのではないかというのはおっしゃるとおりです。ただ、その一方で、私も自分なりにという言い方を説明会ですと頼りないのでやめろとよく言われるんですけれども、自分なりに考えてきた中で、やはり難しいことは難しいと言わせていただくほうが、現実だろうと思っっています。

それについて、そういうような受け取り方をされてしまうというお話を聞かせていただいたのも、大変個人的ではあるんですが、私としてはとてもありがたかったと思っっております。

ですので、言い訳がましいことにはなりますけれども、ぼやっとした言い方ばかりをしているのではなくて、今、自分が難しいと、何も考えていないのではなくて、自分の考えの中では難しいということについては、難しいと言わせていただくべきだと思っての発言だということだけは言わせていただきます。

それで、人事の件はあらまし市長が申し上げたんですけれども、改めて少し補足をさせていただきますと、今回のこのプランで、職員さんの中であらかじめ勤務する期間が決まっていらっしゃる方を除いては、ほかの保育以外の仕事をしていただくというプランにはなっていません。簡単に言いますと、今くりのみにいる保育士が、仮にお子さんの数に連動して減っていったとしても、それはほかの園に異動するか、先ほど申し上げた巡回支援チームのほうに組み込まれるか2択になると思います。

プラス、先ほど市長が申し上げた異動というものがあったり、様々なご事情で退職されてしまうということもあったりしますので、今いるメンバーを最後まで変わらず置くというのは、また言ってしまうんですけれども、ちょっとそれは難しいんですけれども、アンバランスな形にならないようにしなければいけないというのは5園共通だと思っておりますので、そういう部分も配慮しながら、なるべくこちらのほうも、できる限り安全な保育ができるような体制を組んでいく必要があるという認識を持っております。

以上です。

○事務局（中島） 先に前の方でよろしいですか。その次、3列目の方に。

○参加者 よろしくお願ひします。いろいろちょっと説明会とか話、参加させていただいて、いろいろ感じたこと、意見になるんですかね、ちょっとお話しさせていただければと思っています。

いろんな方から意見が出ているとは思いますが、何か進め方とか、スケジュールとか、その辺が具体性になっていない。そういったところで多分、すごい、言い方はちょっと違うかもしれないですけども、不信感を抱いてしまうので、説明会をしてくれて、真摯に多分お時間つくってやってくださっているんですけども、あまり効果が出ているように感じないというのが個人的な意見です。

やっただいていることにはすごく感謝はするんですけども、それに対する効果が出ていないかなというところがあって、じゃあそこに対してどういうふうに進めていくのかというところを多分、皆さん聞きたいんじゃないかなって思うので。同じことを繰り返しているというところ、さっき教育長から、若干内容が変わっているんですよと

いうお話あったんですけれども、そもそもそういうことじゃないのかなというところがあります。

その辺の多分、対応の仕方、我々の考え方というのも変わってくるんじゃないかなというところは、正直、個人的な意見ですけれども、思っておりますので。ただ説明会をやったから、15回やったからとか、一部の保護者では、3月の条例に向けて、取りあえず時間稼ぎをして、そのまんま条例で可決というんですかね、ちょっと分かんないですけれども、決めちゃえば、もう話、進んじゃうんじゃないかとか。やっぱりそういったところ、計画がないから、勝手に憶測で話が進んじゃいますよね。そうすると、市の側がどれだけ丁寧にやってくれさせても、何かそこが伝わらないのはすごくもったいない。お互いに時間の使い方をちょっと考えたほうがいいんじゃないかなというのがあります。

あと、今日もいろいろ話が出ているんですけれども、例えば小学校との連携だったり、巡回サービスですね。ここも何回か話が出ていますし、あと、財団をつくったりだとかという意見もあったりします。この辺の意見も、何かその場でもうイエス、ノーが出ちゃっていて、何か議論じゃないし対話でもないよねという印象を、ちょっと持つちゃいます。じゃあ確かに、そんな意見があったから、ちょっと市でも考えてみますとか、じゃあそれから次の市民説明会で話すから、アップするので見といてくださいとか、さっき、のれんに袖でしたっけ、何かありましたけれども、言っても伝わっているのかなとか、分かってくれているのかなという意見がありますね。

なので、別にその場ですぐ回答してくれなくていいし、時間かかっても、ちゃんと考えてくれたんだなというのはどこかで、こちら辺はもうちょっと考えてほしいかなって思っています。じゃないと、説明会に行っても、言っても一緒だし、変わらないし、時間ももったいないし、出ないよね。で、市は、人が減って、説明して、納得していただいたんで進めますってなると、市と市民の間がどんどんどんどん離れていっちゃうかなと思っているんで、何かその辺のもうちょっと進め方。

全部が全部反省しろという話じゃなくて、我々もいろいろ、確かに子どもが在園する父母がどうしても対象になっちゃうので、やっぱり世代は変わっていくので、なかなか今までの引継ぎというのはできていないので、その辺は我々父母としても考えなきゃいけないことかなとは個人的には思っているんですけれども、市としても、やっぱりそこら辺の将来的なことを見据えた話と、今回、廃園というところがインパクトがでか過ぎ

て、それにひもづく背景だとか、経緯だとか、そういったところの説明もないので、やっぱり受けた側としては、拒否反応を示しちゃいますよね。これって多分お互い一緒だと思うんです。

なので、さっきワードとして、市としてとか、市議で話をしてとかというのはあったんですけども、保護者の目線も持ってもらいたいなというのは思っています。

なので、その辺がもうちょっとお互いに、何かお互いの視点に立ったときには、市も確かに財源大変だよ。じゃあ、ここはしょうがないのかな。でも、巡回サービスというこういうのがあって、こういうことをやってくれるんだって。こういう期待効果も出ているんだから、じゃあ、ここはやってもらおうよとか、そこに対して、またPDCAを繰り返して、評価できる窓口もつくってくれるんだってという話になれば、保護者としても、もうちょっと納得感あるかなという。

なので、その場その場で、一問一答で終わっちゃっていて、何か議論というよりは、ポイントポイントの話になっちゃっているんで、この辺の進め方をもうちょっと考えてほしいかなと思っています。

私、意見なので、別に答弁いらないので、他の方に回していただければと思います。お願いします。

○西岡市長 ありがとうございます。

○事務局（中島） じゃあ先に手を挙げていただいていた、3列目の方、お願いします。

○参加者 すみません、ちょっとできる限り市長とお話、市長の意見を聞きたいなと思っているので、できる限り市長がお答えいただけるとうれしいです。

ちょっとこちらが質問をば一つとするというよりは、ちょっとお話をさせていただきたいんですけども、まず今回、この廃園という問題に対して、市長は利用者とか市民に対話、納得、理解をして進めていきたいというふうにおっしゃっていたと思うんですけども、その対話とか理解とか納得というのは、市長の中でどういう状態を、納得されたとか理解してもらえたというふうに考えていますか。この問題って廃園なので、正直廃園に賛成ですという結論になることはあまりないかなと思うんです。でも、その中でちゃんと理由を説明して、それだったら仕方ないなとか、一定の理解を得られることだとは思いますが、そこをまずどう考えているか教えてください。今、お答えいただいてもいいですか。

○西岡市長 ご意見をいただきました。質問者の方がおっしゃっている見方というか、展開が、非

常にそういうご意見があるんだなということは受け止めさせていただきたいと思います。

段階的縮小から廃園という手法は、もちろん異年齢保育ができなくなってしまうことや、そもそもいろいろお時間をつくっていただいて、皆様方に考えていただいたり、このような場に来ていただいたりするところで、様々なご負担をおかけしておりますので、その点について私も、非常に心苦しいものがあります。しかし、好きこのんでこのような方針案を示したわけでもありませんし、非常に苦しい判断です。あるものが廃園になるということですから、それは市長としては、本当に苦しい判断で。しかし、そこまで考えなければ、今の状況を改善していくことがなかなか難しいという背景があるということも、どうかご理解いただきたいと思います。

理解の度合いというのは、これは、なかなか言葉で表現するのは難しいです。また、数値的に、先ほど申し上げたように賛否を採ったりすることでもない。これは失礼な話だと思うんです、私は。ですからこういった場を、全て私も参加させていただいております。先ほどもご意見もありましたが、やや私たちの回答がもう紋切り型というか、全てに蓋をするような印象を持たれているのはちょっとつらいところでして、参考になる意見もあるし、持ち帰って検討しているところもありますし、あ、これはやはりやらなければいけないなというご意見があつて、真摯に聞かせていただいています。

そういう姿勢を持って、私としてはこの説明会に臨ませていただいている、最終的には市長として、小金井市が、この公立保育園の運営主体でございますので、総合的に考えさせていただきたいと存じます。

以上です。

○参加者 ちよつとごめんなさい。あんまり質問して、やっぱりこれじゃない感が私としてはすごく強くて、皆さんもそうじゃないかなと思うんですけど。例えばですけれども、じゃあその理解度とか納得度って、確かに数値に出すのは難しいと思うので、例えばじゃあ前回までの、第1回の説明会のときに、市長が説明とかをしたい、伝えたいことについて、例えばじゃあ5点中、何点伝わったと考えられているんですか。

○西岡市長 もう一度お願いします。

○参加者 市長が伝えたいことがあつたと思うんです。前回までの1回目の説明会で。そのときに、市長としてでいいんですけども、伝えたいことを例えばじゃあ10あつたとしたら、10中いくつ伝えられた、市民の方にちゃんと意図を伝えられたと考えられていますか。

○西岡市長 難しい質問ですが、こちらが用意しているというか、もちろん資料に分かりやすく、至らない点もあると思いますけれども、まずこの見直し方針案、それから見直し検討結果報告と、この二つの資料があるわけです。この資料に基づいて市民の方々に説明し、またご質問にお答えしているのです、例えば10言わなければいけないうちの、大体こちらとしてお伝えしたいということについては、お伝えは……。

○参加者 あの、ちょっと、違います。

○西岡市長 ちょっと待ってください。まだ答えています。

しかしながら、どれだけ理解が得られたか、どれだけ把握していただけたか、どこまでそれが伝わったかというのは、現状、それを数値的に答えるのが非常に難しいだろうとは思っています。私たちが伝えたいことについて努力はしています。努力はしているんですけれども、まだその努力について、まだまだ至らない、足りないというご意見もいただいているということは、十分把握しているんですけれども、こちらとしてお伝えしようと思っていることについては伝えてはいると考えています。

○参加者 ごめんなさい。ちょっと私の言い方も10という言い方をしたんですけれども、量的なことではなくて、自分が伝えようと思っていた内容を100%中、何%伝えられたかというところであって、理解と納得が違っていることは分かっているんです。納得は当然、もし廃園にすごく反対の立場の方からすれば、幾ら何を言われようと、納得はしないと思うんですけれども、理解はできると思うんです。例えばじゃあお金がありません。財政がありません。だからもうできないんですって言われれば、それがもう100%のもし理由だったとしたら、もし反対の人だったとしても、反対だけでも、もうお金がなければ仕方ないって思う、納得はあると思うんです。それとは別に、じゃあそのお金がないなら、お金をどうにかしろよという話になると思うんですけれども。

なので、納得してもらってなくてもいいんですけれども、相手にどれだけ理解してもらったというふうに考えられているのかなというのを聞いたかったんです。そこはいかがですか。

○西岡市長 市が置かれている現状ですね、先ほど私は施設の老朽化、人材の確保、それから財政課題、それから保育ニーズ、保育定員数の状況と人口減少の見通し、また、やらなければいけない保育のニーズ。また補足する形で、市の財政状況や、これまでの児童福祉などの状況については、なるべく丁寧にお伝えはさせていただいています。

そのことに対する理解度はどう市長として思っているんだというご質問だと思うんで

すけれども、違うんですか。

○参加者 理解度というか、市長が多分伝えたいことってあると思うんです、廃園を説明するに当たって。こういう思いでとか、こういう理由があって廃園をするという決断をするって方針で決断をされているはずなので、その思いとか計画とかを伝えたいはずなんです、説明会なので。そこについて市長の、前回の説明会で変な話、もう分かりやすく言っちゃうと手応えはどうだったのかなという。手応えは正直もう全くないなという感じなのか、その伝えたいことを全然伝えられなくて、逆に市民の人に勘違いさせちゃって怒らせちゃったのかなのか、どういうふうに感じていますか。もう単純に1回目の説明会の全体的な感想でもいいです。印象でいいです。あの説明会をしていて、単純にどう思われましたかというのを聞きたいです。

○西岡市長 最初おわびから入っているんです。スタートから。それは、説明会の開催が急であったことや、また説明会をする前にも修正をさせていただいているので、その修正版をお配りするような事態となったこと。コロナの関係もあって、意見シートをお配りさせていただいて、それで臨んでいますので、初めて顔を合わせた場面でしたので、最初の印象としては、1回目の印象をどう思うかということに関して申し上げれば、大変大きな不満、不安、行政への不安、憤り、こういったことを多くの方々が表明された、そう思っています。その中で私は、ですから引き続き説明会を開催するというので、今回も臨ませていただいておりますが。

この段階的縮小から廃園に至った、いろいろな経過については、不十分だとおっしゃると思いますけれども、この限られた時間ではありますけれども、私としては担当共々、それぞれの中で、精いっぱいお答えをさせていただいているとは思っていますが、まだ説明会の渦中にあるので、今日もこの後午後もありますし、明日もありますので、今後もしっかり真摯に臨んでまいりたいと思っております。

○参加者 ありがとうございます。今のなんか答えたことに対して、すごく市長の考えとか、思いがすごく分かるような回答だったんですけども、やっぱりこういう会話をすごくしたくて。今後ということなんですけれども、例えばじゃあ今日、前回の第1回の市民の方の不満とか不安とかを感じたというふうにおっしゃったんですけど、それを踏まえて、次の今やっている第2回、この説明会では、市長としてはどういうことを重点的に伝えたいとか、そういう思いってありますか。

○西岡市長 説明会を開催しながらも、私の冒頭の発言内容も変わったんです。最初の8回を終え

て、今回のフェーズに入るに際しては、多くのご質問をいただいた中で3点、今日から4点ですが、4点に絞ってお答えをするとともに、幼保小の連携などはもちろん、今後の、私たちも、これの検討、協議ってずっと続くんです。どんな状況でも必要なんです。私たちは常に検討、協議をしていく組織なんです。ですから、その検討・協議にはつながっていると私は考えています。

○参加者

分かりました。

じゃあ、あと例えば、先ほどアンケートの話とかがあったと思うんですけども、ごめんなさい、まずこういう話をしているのも、やっぱり廃園の結論はもちろん嫌なんですけど、もちろん反対なんですけども、それより、やっぱり過程とか、今回とか前回の説明会の説明内容とか、これじゃない感とか、これまでの突然、廃園案を送ってきたりとか、やっぱりそのやり方の部分にすごく今、私個人として、ほかの方もそうかもしれないんですけども、そこにやっぱり不満とか不安を感じていて。例えば、今日も市長が結構強調されているのが、総合的に市長として判断しますというふうにおっしゃられているんですけども、その状態を見せられた私たちからすると、正直信用がないので、ごめんなさい、言い方が悪かったら申し訳ないんですけども、そんな人に判断しますって言われても、何か本当に信用できないし、任せられないなというのが、今単純な感想で、そこに対して、やっぱり市長の本当の思いを聞きたいという思いで、ちょっと最初そういう質問をさせていただいたんですけど。

あとは例えばさっきも、細かいことになっちゃうんですけども、民営化のときに、使っている方は、保育士さんが一斉に変わっちゃうことが、すごく不安だって皆さんおっしゃっていたことを強調したいって今日、3、4回言われているんですけども、それって廃園の話が出る前の話で、民営化の話だけしていれば、それは正直当たり前だと思うんですね。状況が変わるので、お子さんを取り巻く。もう信用していないので、そこを強調されちゃうと、これはもう感想として聞き流してもらってもいいんですけども、強調されちゃうと、例えばじゃあ廃園が決まったときに民営化についても検討したけれども、保護者に聞いたら保育士さんが一斉に変わることを懸念されて、やっぱりそこもご納得いただけなかったのも、こっちに踏み切りましたみたいな、何かそういう説明に使うんだろうなみたいな思いに、何かネガティブに正直今、そちらがやられることを捉えちゃうような感じになっているので、例えばさっきのお子さん1人になったとしても、保育士さんとか皆さん、先生たちは絶対残しますとおっしゃっているんですけど

ども、実際そうなって、子どもも、親として、もう5歳で子ども1人だけで他の子たちの交流がなくて、子どもを預けるかって言われたら預けないですね。

例えば廃園にするにしても、廃園すると、そういうふうにお子さんがもうどんどん抜けていっちゃって1人になることがあるかもしれない。ただ、そういうときに、例えばですけれども、分からないですけれども、じゃあ近くのこういう保育園に入れるような制度とか、優遇措置をして1人になることを防いでいて、その子が1人で実際に保育になることをなくしていくということも考えていますとか、そういう先話を聞きたくて。何か本当に理解、納得してもらおうと思ったら、やっぱりそういうところの提案とか話し合いをしていきたいなというのがあるんですね。

なので、その廃園の理由とかは多分立場上ってこともあるんですけども、なかなか本音を言うのは難しいと思うので、そういうところの対話を今後していきたいというのが、私個人のこれは感想です。もちろん廃園に賛成というわけではないです。

なので、今後はちょっとそういうところを踏まえて、やっていっていただきたいし、例えばアンケートにしても、正直相手の理解度とか納得度を聞きたければ、普通に考えればやるべきだし、やらないのって、当然それをやれば紙で結果として納得していません、100%という結果が残っちゃうので、対話を進める上では、それって不都合だと思うんです。

でも、それをもしやったとしたら、逆に本気で市長は理解してもらおうというふうに思っているんだなというのを、私自身も感じるし、ほかの保護者の方にも伝わると思うんです。なので、ちょっとそういうやっぱり、こういう回数はやっぱり重ねて、形式的に説明しました。でも廃園が議決されました、進めますじゃなくて、もし別にそれで理解度が得られなかったとしても、そういうことをやっぱり本気で納得してもらおうという行動をして、で、納得されませんでした。でも市長として、財政状況を見て、廃園を判断しましたのほうによっぽどいいと思うんです。

なので、そういうふうやっぱり、私たちの本当に思いとかを形だけでなく本当に聞いてもらって、市長の思いをもって、この問題は今後取り組んでほしいなというふうに思ったので。ごめんなさい、何か質問とか感想みたいになっちゃったんですけども、今後そういうふうにしていっていただきたいなと思います。

○西岡市長 熱い思いと言うんでしょうか、語っていただきまして、また、恐らく何度か説明会に来られているので、そういった状況を見てご指摘をいただきまして、ご示唆をいただき

まして、ありがとうございます。しっかり受け止めさせていただきます。

なお、1人になってもはあくまでも仮定の話で、職員体制は必ず構築しますということの例えで申し上げたので、例えが悪かったかもしれません。段階的縮小をしていく中であつたら、当然のことながら、保育士や、保護者の皆様や、保育園の皆様のことは、今想定していなくても、そのときにやるべきことがあれば、それは必ずやります。でもそれは、今想定しなくても、こういう取組が必要だよ、こういう取組をやったらいよいよねってことは常に出てくると思うんですね。

ですから、今決めたことじゃなかったらやりませんという、そういう紋切り型ではなくて、保育園というのは常に運営する以上は、その現場には保育士がおり、そして保護者の方々の声があり、何よりも、そこで育つ子どもたちのために必要なことがあるならば、そのことについてはしっかり取り組んでいきたいという姿勢を、これはもう基本的な姿勢として持っています。そのことをしっかりとお伝えをさせていただきたいと思えます。

○参加者 ありがとうございます。ごめんなさい、最後に1個だけ。やっぱり最後、これじゃない感が印象として持ちちゃうんですけれども。最後の1人になっちゃうのは、別に悪い例だとは思わなくて、現実的に起こることだと多分私たちは思っているんです。募集をやめますって言ったら申し込む人も減るだろうし、周りも減ってくればやっぱり、お友達がいっぱいいる園に転園させてあげようとか、さらに選考の優遇とかもされるので、そういう方は出てくると思うんです。実際にそういうことって起こり得るし、そうなったときに小金井市としてどうしてくれるのかとか、子どものためを考えてこういうことをしようと思っていますとか、そういうことが聞きたいし、ほかにもいろいろあると思うんです。1人になっちゃうとかもそうだし、異年齢保育ができなくなっちゃう話とかもそうなんですけど。せっかく教育委員会の方、来ていただいている、説明はしていただいているんですけれども、別に、誰も多分、今日納得していないんじゃないかなというのが個人的な印象だし、教育委員会としても、例えばじゃあ、こういうバックアップが候補としてです、別にできるなんてなくていいですよ、候補としてこういうふうな案があつて、こういうふうに交流をすることで異年齢保育がなくなっちゃう心配もなくなるかなと考えていますとか、本当に現実に即したことを考えて、今後やっていただければうれしいなと思います。お答えは大丈夫です。

○西岡市長 ありがとうございます。

○事務局（中島） 続けてそちらの方、お願いします。

○参加者 すみません。ちょっと時間が過ぎているんですけども、私からも質問させていただきます。今日のご説明ありがとうございました。

今日のご説明と、あと皆様から出た質問への回答の中から、ちょっと改めて疑問に思ったところと、意見したいところを言わせていただきたいと思います。

大きく5点ありまして、まず1点目なんですけれども、これは皆様から再三出ていることなので、質問というよりかは私からの意見としてお伝えしたいんですけども、やはり廃園の理由の説明のところ、例えば財政上の問題、老朽化の問題というところは、私も含めて皆さん理解はされていると思います。聞きたいのはやはりそこではなくて、民営化の話がこれまでずっとあったのに、そこへの配慮だとか経緯といったものを一切説明なさらずに廃園にするということをお話しされていることへ皆さん違和感を持っていると思います。なので、やはりそこは、これは前回の説明会でもお話ししていただいたんですけども、きちんと向き合って、そこへのフォローアップもあるべきだと思います。

廃園をやらざるを得ないというご判断で、これは本来なら平成9年から続いている、その民営化への議論の中で出てくるべきなんですけれども、それが結果としてこのタイミングになってしまった。老朽化のことを考えても、市長として市政として、判断せざるを得ない時期に来たという説明があったんですけども、結果としてそうなってしまったというのは事実なので、そうであるならば、もうそれは市の側で判断しなければいけませんというのは、事実として、これは対話をもった決定ではなくて、トップダウンの独裁型なんです、言い方悪いですけども。

そうなったときに、やはりそういう判断をせざるを得なかったことをきちんと市民、保護者に対して説明するべきだと思うんですけども、それに対しても対話を重ねるということを、まだおっしゃっているの、それはちょっと支離滅裂といいますか、合致していない部分かなと思います。

これは、たればというか、お話になるんですけども、本来ならやはり、平成9年からある協議会の中で、例えばタイムリミットがあったのであれば、ここの時点までに決着がつかなかった場合、市のほうに判断を委ねて、民営化なり、廃園なりの方針を決定しますということが、事前に周知されていたのであれば、それはしかるべき策として成り立つと思うんですけども、今回はそういったこともなく、保護者の間ではずっと

民営化で進めてきたものを、市政の側から一方的に廃園ということを説明された。

そこは、市のほうで判断せざるを得ない時期が来たという言い方をされていたんですけども、結局市で判断したものを、トップダウンを押しつけているということをやしているという発言にしか捉えられないので、そこはきっちりそうせざるを得なかったという理解を得るための説明にシフトして、ご説明されるべきだというふうに思いました。

なので、ここからの話というのは、市長が求めているものはあくまで対話ではなくて、私たちの話を理解してくださいと言っているようにしか聞こえないというふうに捉えております。なので、これは質問ではなくて意見として、そう捉えられているということを考えていただいて、今後の説明に生かしていただければなと思っております。

2点目なんですけれども、ここちょっと重要なところで、保育の質の話、再三挙がっていますけれども。ご回答のところ、まず課長さんが質問への回答として、人気のあるなしという保護者からの園があるということは理解しているけれどもという話をされていたんですけども、我々が聞きたい、不安に思っているところというのは、人気があるなしではなくて、保育の安全性のことを言っています。そこを保育の主として理解されているかというところを聞きたいです。

これというのは、廃園もそうですけれども、それ以前の問題として、市には民間の保育園であっても、やはり安全性というところは管理する責任があると思っていますので、そこは今後、全ての園に対して管理して、是正をする姿勢があるのかどうかというのは、きちんと聞いてみたいです。

その廃園に当たって、保育の質が不安だということ、民間園の不安があるということで、今回教育長にもご同席いただいていますけれども、その説明として、学校との連携があるというのは、一つの施策としてぜひやっていただきたいところなんですけれども、そもそも我々が言いたいところは、学校との連携、学校へ上がってからのことではなくて、廃園に当たって、段階的縮小で子どもたちが受ける影響、そこへのフォローアップをどう考えているのか、具体的な策がないというところを聞いていますので、そこは市長、それから市政に対して、もうちょっとやっぱり具体的な策をお話しいただきたい。検討した上で、これで大丈夫と、我々が安心してお任せできるプランを、やはり提示いただきたいなと思っています。

あと、3点目が、ちょっと今のところに関わるんですけども、教育長のほうから、

小学校との連携を深めていくというところで、2校の校長に話をさせていただいて特別対応をするということをお話しいただきましたけれども、その2校というのは小学校の2校ということに捉えていますけれども、今回、廃園はくりのみとさくらの2園ですけれども、学校との連携を強化するに当たって2校だけで十分だと思わないんです。やはり同じ保育園からも、別の小学校に行かれる方もいらっしゃると思いますし、上がったからだけの問題ではないというのは先ほど述べたとおりなんですけれども。

もうちょっと教育長として、この辺は、やはり保育園と小学校だったりとかということの、行政上の区別というのはあるかと思うんですけれども、もう少し教育長として関わっていただけることはないのかなというのは思っております。

4点目なんですけれども、市長がご説明の中で、民間の事業者に対して、こちらも保護していく責任があるというようなお話をされていまして、それは市長のお立場から、やはり民間の保育園を設立して行って、そちらの経営も守っていかねばいけないというお立場にあることは理解しているんですけれども、そのことと、今回、公立の保育園を廃園せざるを得ないということは全く別物であるというふうに思っています。これまで待機児童が多かったものの解消として、民間園を増やして行って、定員数を増やしていった。今後、少子化で定員割れしていくというのは、公立園があろうがなかろうが、これは自明のことであって、必ずそういう時期は訪れると思います。

なので、その中で、民間の保育園を経営を守るために、公立園を少なくしていくというのは、全くつながりがある話に感じられません。民間の事業者の保護というのも、もちろん大事だと思いますけれども、やはり今、市民や保護者のニーズとして、公立園の存続だったり、継続した検討が求められている中で、そちらの民間の保護というものを優先しているように聞こえてしまったので、そこは改めてご説明いただきたいところです。

あと、これが最後なんですけれども、先ほど、説明会の打切りがあったという質問への回答として、市長から、打切りをしたとは捉えていないという回答がありまして。私の理解としては、事実として前回のくりのみ保育園の保護者向けの説明会は、市長からも冒頭ありましたけれども、2時前ぐらいまで長引いたという説明会だったと思うんですが、あれはやはり多くの保護者さんが、まだ言いたいことを抱えている状態で、時間的理由から打ち切られたというふうに理解しています。

打切りをしたということ自体は、もちろん事情が、時間の都合、保育の都合という事

情があったことだと思うので、仕方がないことだったとして、それを打ち切りにしたというふうに捉えずに、市長が十分に説明責任を果たしたと捉えていたんだとしたら、そちらのほうが問題だと思っていて。打ち切りをせざる得ない理由があったのであれば、やはりそれに対するフォローアップ、アンケートだったりとか、そういったものの意見を、事後の意見を求める等の対応をすべきだったと思いますし、あの打ち切りをした状態で私は説明責任を果たしましたと、もし捉えていらっしゃるのであれば、そうしたところからも、やはり市長への市民の保護者に対するリスペクトというものが感じられませんし、そういうところに皆さん、不満をお持ちなんじゃないかなというふうに思っています。

すみません、質問というより意見が多くなったんですけれども、以上です。

○平岡保育政策担当課長 まずちょっと幾つかいただいていたので、順番にお答えできるところからというふうに思っています。

一つ目の廃園理由のところと、民営化から廃園について変わったところの件の部分についてはご意見をいただいていたと思いますが、ちょっと回答ではなくてご意見ということで承らせていただきたいと思います。

それから、二つ目として、ここまで来てしまったので、もう民営化ではなくて廃園せざるを得なくなったと。なのでというような視点を明確にしてやっていくべきではなかったのかというお話だったかなと思っています。ちょっと今ここで、それに対してどうのというのはすぐにはお答え難しいと思っていますが、保護者の方々からそういうご理解だと、そういうべきだというご意見があったというのは、きちんと受け止めたいと思います。

それから、私の、人気のありなしではなくて安全性についてというところであります。この安全という言葉については、どこを安全とするかということについては、なかなか難しいところはあるとは思っておりますけれども、やはり危険な状態。安全をひっくり返すと危険になってしまうので、危険な状態がよくないというふうには思っています。ですので、状況として問題がある園があるとすれば、市として入っていく必要はあるとは思いますが、定期的に頻繁に状況を確認していくというところは、すぐに行うのは、様々な面で、簡単に言えば体制面なども含めると難しい状況はあるとは思っておりますが、今、こちらでやらせていただいているのは保護者の方からのご意見とか、そういったことがあれば、園のほうに状況を確認させていただくというのは、すぐ行わせていただいておりますし、その中で、安全、危険のレベルにもよりますが、や

はり直していただかなければいけないことが少しでもあれば、それはお願いしますし、お願いではなくて、直さないといけないレベルであれば、これ直してくださいという話になっていくというふうに思っています。

ですので、先ほど、人気という言い方をさせていただいたのは、いろんな見方があるということと言わせていただきましたので、問題があるというようなお話が市のほうに来るのであれば、それは市として当然対応させていただくことになるんですが、なかなか能動的に、頻繁に、現場を見に行き行ってチェックするというのは、今の状況では難しく、そのためだけに置くわけではないんですけれども、そういう点でも、保育目線で見られる、巡回できる職員が欲しいというのが、今回のプランになっているというところはあります。

それから、学校さんとの連携その他のプランのところでございますけれども、この間、今、5園の園長たちとも定期的に園長会をやっているんですけれども、今後のお子さんへの対応、交流事業の対応について、少し突っ込んだ意見交換をさせていただいた機会がありました。やはり先々、この先々を考えていったときに、お子さんが何人ぐらいいて、どういう狙いで、どういうふうな内容をやっていくのかというのは、じっくりお互いで詰めていかないといけないのではないかと、簡単に言うと厳しいご意見をいただきました。

ですので、私たちのほうも、どことぐらいまではお伝えしていくことはできるのではないかと思っているんですけれども、内容については軽々しくお話ができるものではないなという認識にも立ちました。ですので、言える範囲のことは今後も言っていきたいと思っていますし、先に決められることは決めていきたいと思っていますが、皆様が望んでいらっしゃるほどの鮮明なプランというのをお出しできるかどうかというのは、そのお子さんの保育のことを考えたときに、逆に難しいということを改めて私としては認識しましたので、それはちょっと今この場でお伝えさせていただければと思います。

それから、民間を守っていくのと公立を廃園するのは別ではないかというお話でございました。確かにいろんな課題があるというような背景を様々書かせていただいたので、全てが廃園につながる理由というふうに受け止められてしまっているところもあるのかなというふうに思っております。公立を一つ減らせば民間は守れるというような、直結している考え方を持っているわけではありませんで、やはり今回、市長も様々な説明をさせていただいておりますけれども、公立の維持をしていくのが、いわゆるランニング

コスト面でも、施設に老朽化に対するリカバリーであるとか、その辺でも、小金井市としては現状難しいんだというのが、一番の理由となっております。

そういった中で、世の中として待機児童が減ってきているとか、一方で園を増やしてきたことによって空きが生じていて、それも課題となっている。様々なことがありますという中で背景を書かせていただいていますので、民間を守るために公立を減らすというような、直結した考え方ではありません。ただ、募集のことについては、0歳児の募集の部分については申し訳ないですが、そういうような視点で調整をさせていただいていることもあるのは事実であります。

あと、打ち切りのところについては、おっしゃっているとおり、こちらとして打ち切りというと、一方的に切ったという視点だけをもってお答えをさせていただいていますので、そういう意味ではなくて、いろいろな理由があって、それ以上の時間、その場で継続できなかったということで終わらせていただいたということを打ち切りと言うのであれば、それは打ち切りという理解は市長も変わらないと思いますので、そこは訂正をさせていただきます。

○大熊教育長 先ほど、幼保小の連携のことですが、この話が始まる前に、基本方針の3のところ、小1の壁があるということを明記しておりまして、具体的な策として出していたわけではなくて、教員研修の一環として、「幼稚園・保育園等との連携を図り、幼児期の教育や自発的な活動としての遊びを通して育まれてきたことが、小学校入学当初の各教科学習に円滑に接続されるよう指導の工夫や指導計画を作成する」という形で明記しているんですね。この指導計画の作成の中に、今回の幼保小連携が入ってくるということなんです。

ですから、その2校に、これは市長からの命があって特別な対応をしてくれと言われたので、その2校の校長には特別に話をさせていただいておりますが、ここの教員研修の中の指導計画の中に、幼保小の連携は今後入ってくるだろうと。実を言いますと、もう少し細かく実は決まっております、先月の校長会でその話をもうしておりますので、実は僕はそういう話をした瞬間に、指導室長の方はどのようなことができるかという案は、各学校全部に示しておりますので、そういう案の中から、各学校が実態に応じて取組が始まる。それは、前回もこういう説明会で説明させていただいたんですが、そのとき、先生がいらっしゃっていて、先生に対してちょっと専門的な言い方になってしまったんですが、そこをもう一回読んでいただくと分かると思いますけれども、教育課程と

というのは、学校が主体的に取り組むものであって、教育委員会が一方的にできるものではないと。教育課程の届出に当たって、教育委員会の方針を示すのは、先日の校長会、そこで示されたものを受けて、各学校が、校長の指針として教育課程を編成する。その中に、幼保小の連携を入れてもらうという形になるんだと、そういうことなんです。

だから何かを入れてほしいということと言えないんです。そこのところ、ちょっと難しいんですけども、確実に進めると思います。

○西岡市長 様々なご質問、ご意見をいただきまして、ありがとうございます。よろしくお願いたします。

○参加者 市長からは特に回答がなければ、私からもう一回質問をさせていただきたいんですけども、今の幼保小連携のところ、教育長からご説明いただいたところは、非常に理解しました。それは、必要な対応として、今後もぜひやっていただくべきだと思いますし、その部分というのは、十分やっていただいているんだというふうに理解をしております。

幼保小の連携として小学校のほうで保育園から上がってきた子たちへのフォローアップを強化するなり、そういった体制ができているというところは安心材料の一つで、それはそれで一つ施策としてあると思うんですけども、私が言いたかったこととしては、市長のほうから、2校への強化をお願いしたというところで、2校限定するのではなくて、もうちょっと全体として考えるべきなんではないかという点が1点と。

あとごめんなさい、もう1点ありまして、どちらかというと市長への質問なんですけれども、2校に限定すべきではないという点が1点で、もう一つは、教育長にお願いする以前の話として、やはり保育園児へのフォローとして、小学校へ上がったときだけのフォローではなくて、在園児のフォローというものの具体策に欠けているのではないですかということをお心配していますので、そこは課長のほうから、今ここで具体的なものを出せるものではないというふうにおっしゃったんですけども、私としては、それで決まりですというのではなくて、こういう可能性があります。ここまで市政のほうでは、市長のほうでは、教育委員会のほうで考えています。これだけフォローアップする体制を考えた上で廃園に踏み切りたいと思いますという、その施策の例といいますか、プランをやはり示していただかないと、納得しないのではないかとこのところを申し上げたかった次第です。

○大熊教育長 学校が新しいことを始めるときに、コンピューターの導入をするときに、前原小学校、

本町小学校、南中学校で研究をして、その研究内容が他校に広まるという形になるんですね。

今回、どこでやってもらってもいいんですけども、特別の扱いということで、今回だけは、くりのみ保育園の近隣の小学校等をお願いをします。今回では異例のことなんですけど。教育委員会として、ある一定の学校に対して、研究をしてほしいという依頼をし、それを他の学校に広げるということは日常行われていることなので、それを本教育委員会としては指定をするというのは、今回の取組と理解していただき、そこは研究内容が他校に広まるというふうに考えております。

それから、もう一つ、実は、これもやっぱり市長のほうから言われている内容なんですけれども、今、教育委員会と保育課、それから自立生活支援課とで合同のプロジェクトチームが立ち上がっております。その中では、先ほど今心配されていた、様々な課題がある子どもたちが、学校に行って適切に対応できるように、もう少し連携を深くできないかということで、その方策について検討を始めました。なかなか難しい問題で、すぐに取り組めるということを約束するのは、本当は約束したいぐらいなんですけれども、とにかくそういうことも始まりまして、しっかりとした連携を取っていききたい。そんなふうに考えているところです。

○西岡市長　　すみません、私へのご質問でございましたが、申し訳ございません。

まず2校限定ではなくて、まず2校はやっていただいて、先ほど教育長も言いましたけれども、その中で見えてくるものがありますから、そこを広げていこうという考え方はあります。

そして、幼保小の連携は、正直申し上げまして小金井市の取組が、今まで全く不十分でした。これはもう率直に認めます。できていなかったんです、ちゃんと。だからこれからやろうとしている、全体のことをです。これは、やっと始まったんです。

その中で、今、この段階的縮小から廃園ということもあるので、特にくりのみ保育園の在園児とさくら保育園の在園児については、市長としては特別な対応も必要だということで、大熊教育長に指示をさせていただいたと、このようにご理解をいただければと思いますし、そのことが、小金井市全体の幼保小の連携にいい成果というか、いい取組として広がっていくことも期待されることがあると思うんです。今まで十分にできていませんでした、その接続のところ。小金井市の切れ目のない子育て支援というのは、課題なんですけれども、この幼稚園、保育園と、小学校の接続のところは今まで不十分

だったんですけれども、私、他市の例とか23区の先行例も知っていますけれども、ここも強めていきたいということは、これはもう市長部局も教育委員会も共通の認識で持ちましたので、合同のプロジェクトチームをつくらせていただいたというふうに、率直に申し上げたいと思います。

○平岡保育政策担当課長 私のほうでちょっと言い方がまた難しいで終わってしまっていて、どうかという部分もありまして。保育園同士の交流というのは書かせていただいているので、まずどこの園とやるかというのは、それぞれの園の立地から、近いところから声をかけたりして行って、どういうことができるかという話を少しずつ進めていく必要があるというふうに思っています。

ただ、その取組については、どういうことができるのかというのは、園長会の中でも意見交換しながらアプローチをしていく必要があるというふうに思っているのでも、一番最初に決まるのは、多分どの園とやるかというのが決まると思っていて、決まったら今度は、どういうことをどこでどうやっていこうかというお話を園同士、大人同士が話をしていくというのが次のステップだと思っております。

それを、こちらのほうですぐさまこうだということ、あんまり最初からはっきり書けないというふうに思っているのでも、そういう手順を踏んでやっていきたいと思っておりますので、最初にこちらとして明示ができるのは、この園とやりますというお話だと思っております。

それから、地域との交流については、地域の方々と一緒にどういう交流ができるかというのをやっぱり園長たちと相談しながら、やる内容と狙いを決めながらやっていく必要があると思うので、普通に呼びかけるのがいいのか、町会・自治会がいいのか、その辺りも、中身も考えながらでないと、いわゆるただのイベントになってしまうので、そういうことにならないような進め方をしていきたいというふうに今、思っています。今言える100%はここまでなので、ということで、それについてはご理解をいただきたいと思っております。

○参加者 ありがとうございます。最後に一言だけ。今の説明で理解はしました。現状について理解はして、やはり廃園をするということであれば、様々な取組ということが市にとっても、市民にとっても初めてのことになると思いますので、もちろん試験的にやってみて、それを広げていくという方策はあってしかるべきだと、私も理解はしています。

ただ、今のご説明の中で、それはもちろんあるんですけれども、そうしたことを事前

に、あらゆる検討を重ねて、あらゆる可能性を示した上で、初めて、じゃあ廃園でもやっていけそうだねということをも市民と相互理解を取っていくべきものであって、今回の話は廃園にします。なので、これから話合いをしていきますという、順番が逆ではないかなというふうに思ってしまうので、そこはちょっともう少し考え直していただいて、もちろんこれから話合いをして、たくさん意見を吸い上げていただいて、市のほう、市長のほう、それから教育長のほうでも検討していただくんだと思うんですけども、やはりその話合いがあって、現実的なプランというのも市民に示せる状態になってから初めて、じゃあ廃園で進めても大丈夫かというところを問うべきなのではないかなと思います。

すみません、以上にします。ありがとうございました。

○事務局（中島） それでは、時間等が長く過ぎてしまって申し訳ございませんでした。また午後もちょっとわかたけ保育園で行いますので、移動させていただく関係で、このお時間は終了とさせていただきます。

冒頭にご説明したとおり、議事録のほうの作成等が今後、こちらの説明会についてもございますので、ご理解いただければと思います。

以上をもちまして、本説明会を終了させていただきます。資料のほうはそのままお持ち帰りいただければと思います。どうもありがとうございました。

閉 会